

令和7年度 知床国立公園（積雪期）
エゾシカ個体数調整実施業務 報告書



令和8年3月

公益財団法人 知床財団

報告書概要

1. 業務名

令和7年度知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務
(Population control of wintering sika deer herd at Shiretoko National Park, 2025/2026)

2. 業務の背景・目的

知床国立公園及び知床世界自然遺産地域においては、エゾシカの増加による生態系への悪影響が深刻な状況となっており、環境省釧路自然環境事務所では、平成19年度よりエゾシカの個体数調整について検討・実施してきた。対策の進展によりエゾシカ生息密度は低下に転じ、知床岬先端部など一部地域では植生の回復がみられてきてはいるものの、目標とする生息密度には至っておらず、かつ低密度維持のためには一定程度の捕獲圧による個体数調整が必要な状況である。このため、関係機関において「第4期知床半島エゾシカ管理計画」を策定し、さらに具体的なアクションプランである実行計画により、実効的なエゾシカ対策に取り組んでいる。

本業務は、「2025（R7）シカ年度※知床半島エゾシカ管理計画実行計画」（以下、実行計画という）に基づき、冬期におけるエゾシカの個体数調整事業を行うことを目的とする。

※ シカ年度は6月から翌年5月までの期間をいう。

3. 業務の実施体制

本業務は、環境省からの請負業務として公益財団法人知床財団が実施した。

4. 許認可等

本業務は、関係法令に基づき下表の許可等を得て実施された。許可申請等は一部を除き発注者が行い、請負者は主に申請書類等の作成補助を行った。

業務実施にあたり必要な許認可等

法令等	申請先	目的・内容	適用	
鳥獣保護管理法	捕獲許可申請	環境省釧路自然環境事務所長	エゾシカの捕獲	幌別-岩尾別地区 - 罝いわな捕獲 - 銃猟捕獲 - くくりわな捕獲 ルサ-相泊地区 - くくりわな捕獲
道路法	冬期通行止区間の道路使用許可	オホーツク総合振興局長	冬期通行止区間の通行	幌別-岩尾別地区 - 岩尾別大型仕切柵 - 銃猟
森林法	入林届	根釧東部森林管理署長 網走南部森林管理署長	鳥獣の捕獲等を目的とした国有林への入林	幌別-岩尾別地区 - 岩尾別大型仕切柵 - 銃猟 - くくりわな ルサ-相泊地区 - くくりわな
	国有林野使用承認申請	網走南部森林管理署長	大型仕切柵・ハイシートの設置※ 簡易罝いわなの設置	幌別-岩尾別地区

※使用承認期間更新に係る手続き。次回は令和10年度に再度申請を検討。

5. 業務の実施方法及び結果

I. 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整の実施

1. 幌別ー岩尾別地区におけるエゾシカの捕獲

1-1. 大型仕切柵による囲いわな式捕獲

平成 25（2013）年度に設置された岩尾別地区の大型仕切柵を囲いわなとして使用し、エゾシカの捕獲を行った。2025 年 12 月 10 日から 2026 年 2 月 20 日まで期間において計 3 回の捕獲を実施し、計 26 頭（メス成獣 3 頭、オス成獣 19 頭、メス 0 歳 1 頭、オス 0 歳 3 頭）を捕獲した。囲いわなの周辺及び内部にエゾシカを誘引するため、誘引餌の給餌を計 14 回（1 回あたり乾草ブロック 10kg～30kg、計 468kg）行った。また、エゾシカの出現状況や誘引状況を把握するため、自動撮影カメラを 3 台設置した。また、岩尾別ゲート以奥の区間については冬期公園利用に係る関係機関等と連絡調整を図り、適宜除雪を行った。

1-2. 待ち伏せ式狙撃等による銃猟捕獲

岩尾別地区において、待ち伏せ式狙撃等の銃猟によるエゾシカの捕獲を行った。2025 年 12 月 10 日から 2026 年 2 月 17 日までの期間において計 8 回の捕獲を実施し、計 42 頭（メス成獣 17 頭、オス成獣 15 頭、メス 0 歳 6 頭、オス 0 歳 4 頭）を捕獲した。銃猟の実施区域にシカを誘引するための給餌を計 25 回（1 回あたり乾草ブロック 30kg～60kg、計 1,140kg）行った。また、エゾシカの出現状況や誘引状況を把握するため、自動撮影カメラを 4 台設置した。

1-3. くくりわなによる捕獲

幌別地区において、くくりわな最大 20 基を用いてエゾシカの捕獲を行った。2026 年 1 月 8 日から 1 月 29 日までの期間における 400 トラップナイトで合計 40 頭（メス成獣 14 頭、オス成獣 18 頭、メス 0 歳 3 頭、オス 0 歳 5 頭）を捕獲した。また、エゾシカの出現状況や誘引状況を把握するため、自動撮影カメラを 6 台設置した。わな周辺にエゾシカを誘引するための給餌を 28 回（1 回あたり乾草ブロック 5kg～30kg、合計約 582kg）行った。

1-4. 簡易囲いわなによる試行捕獲

岩尾別地区の大型仕切柵内において、簡易資材を使用した囲いわなによるエゾシカの試行捕獲を行った。2026 年 1 月 24 日から 2 月 21 日までの期間において計 2 回の捕獲を実施し、計 7 頭（オス成獣 5 頭、メス 0 歳 1 頭、オス 0 歳 1 頭）を捕獲した。また、エゾシカの出現状況や誘引状況を把握するため、自動撮影カメラを 5 台設置した。囲いわな内にエゾシカを誘引するための給餌を 7 回（1 回あたり乾草ブロック 5kg～30kg、合計約 96kg）行った。

2. ルサー相泊地区におけるエゾシカの捕獲

2-1. くくりわなによる捕獲

ルサ川下流からアイドマリ川左岸までのエリアにおいて、くくりわな最大 30 基を用いてエゾシカの捕獲を行った。2026 年 1 月 5 日から 2 月 4 日までの期間における 508 トラップナイトで合計 23 頭（メス成獣 4 頭、オス成獣 13 頭、メス 0 歳 5 頭、オス 0 歳 1 頭）を捕獲した。エゾシカの捕獲の有無、生息状況並びに誘引状況を把握するため、自動撮影カメラを最大 6 台設置した。わな周辺にエゾシカを誘引するための給餌を 52 回（1 回あたり乾草ブロック 6kg~60kg、計 630kg）行った。

本業務における地区別・捕獲手法別エゾシカ捕獲頭数一覧

	メス 成獣	オス 成獣	メス 0 歳	オス 0 歳	合計
幌別ー岩尾別地区					
大型仕切柵	3	19	1	3	26
誘引狙撃	17	15	6	4	42
くくりわな	14	18	3	5	40
簡易囲いわな	0	5	1	1	7
計	34	57	11	13	115
ルサー相泊地区					
くくりわな	4	13	5	1	23
計	4	13	5	1	23
総計	38	70	16	14	138

※1. 知床半島のエゾシカは通常は満 1 歳で性成熟するため、満 1 歳以上を成獣とした。

II. 業務打ち合わせ

業務打ち合わせを、2025 年 12 月 9 日（Web）、2026 年 1 月 7 日（電話）、2026 年 3 月 6 日（Web）の計 3 回実施した。

目次

I. 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整の実施	1
1. 幌別-岩尾別地区におけるエゾシカの捕獲	1
1-1. 大型仕切柵による囲いわな式捕獲	3
(1) 実施方法	3
(2) 実施結果	11
(3) まとめ・考察	13
1-2. 待ち伏せ式狙撃等による銃猟捕獲	16
(1) 実施方法	16
(2) 実施結果	22
(3) まとめ・考察	24
1-3. くくりわなによる捕獲	28
(1) 実施方法	28
(2) 実施結果	37
(3) まとめ・考察	39
1-4. 簡易囲いわなを用いた試行捕獲	43
(1) 実施方法	44
(2) 実施結果	47
(3) まとめ・考察	58
2. ルサー相泊地区におけるエゾシカの捕獲	59
2-1. くくりわなによる捕獲	60
(1) 実施方法	60
(2) 実施結果	69
(3) まとめ・考察	75
II. 参考・引用文献	78
III. 参考資料	82

I. 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整の実施

1. 幌別ー岩尾別地区におけるエゾシカの捕獲

知床半島において幌別ー岩尾別地区（知床五湖周辺を含む）は、エゾシカ（以下「シカ」とする）の主要な越冬地のひとつとなっており、今冬は2011シカ年度※1のシカ捕獲事業開始以来、15シーズン目となる。本地区では、過去14シーズン（2011～2024シカ年度）に流し猟式シャープシューティング※2（以下、「流し猟式SS」とする）や囲いわな、箱わな等の様々な捕獲手法により、計2,159頭（うちメス成獣1,045頭）のシカが捕獲された。

2022～2026年度を計画期間とする「第4期知床半島エゾシカ管理計画」では、広葉樹の天然更新が可能になると考えられているシカ発見密度（5頭/km²以下）を目指し、航空カウント調査によるシカ発見密度5頭/km²以下を当面の管理目標数値としている。2025年2～3月に実施された航空カウント調査では、同地区（モニタリングユニットS04の範囲）において134頭（4.61頭/km²）のシカが確認されており（公益財団法人知床財団, 2024c）、管理目標値を達成している状況となっているが、引き続き低密度状態の維持に向け個体数調整を継続する必要がある。

上記のような背景から、本業務では過去14シーズンに引き続き、大型仕切柵（以下「仕切柵」とする）および銃猟によるシカ捕獲を、幌別ー岩尾別地区で実施した（図1-1）。

※1 シカ年度は6月から翌年5月までの期間をいう。

※2 シャープシューティングとは銃によるシカ類の効率的捕獲手法の1つで、銃撃を受けた経験を持つ「生き残り」を作らないことを大原則とし、全頭を確実に捕獲できる少数個体から成る群れのみを捕獲対象とする手法。

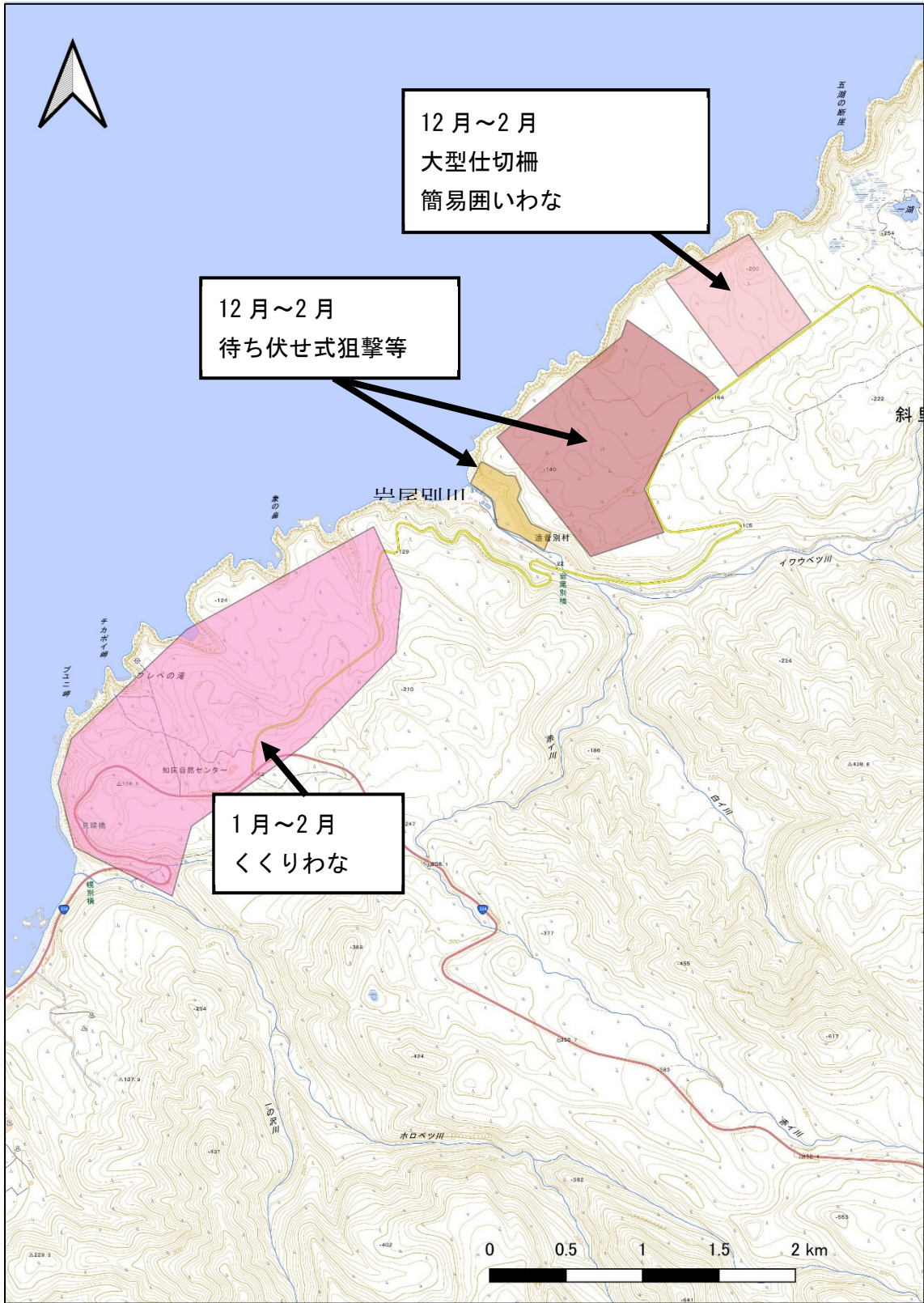


図 1-1. 幌別ー岩尾別地区におけるエゾシカの捕獲実施箇所

1-1. 大型仕切柵による囲いわな式捕獲

2013 年度に設置された仕切柵を使用してシカの捕獲を行った。捕獲の実施にあたっては、平成 26 (2014) 年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務で設置された海岸側の仕切柵に付設された落下式ゲートを使用した。加えて、今回より知床五湖側に設置されている既存のマンゲートも捕獲扉として使用した。

本仕切柵での捕獲は 15 シーズン目となり、昨年度までの累計捕獲数は計 327 頭 (うちメス成獣 96 頭) となっている。

(1) 実施方法

大型仕切柵の設置場所・全体構造

本業務に使用した仕切柵は、環境省釧路自然環境事務所により、(翌債)平成 24 (2012) 年度知床生態系維持回復事業岩尾別地区仕切柵等整備工事によって、2013 年度に整備されたものである。仕切柵の設置場所は、斜里町岩尾別地区の道道知床公園線より海側の台地上である (図 1-2、写真 1-1)。仕切柵の構造及び仕様の詳細については「平成 25 年度知床国立公園エゾシカ密度操作実験実施業務報告書 (2014)」に記載されている。

なお、今年度は通常の大規模仕切柵捕獲と並行し、新たな捕獲手法の検討の一環として、仕切柵の既存マンゲートを使用した簡易囲いわなでの試行的な捕獲も実施している。それぞれの運用について、集計結果等の重複を避けるため、環境省担当官と協議の上、「大規模仕切柵による囲いわな」の稼働中に「簡易囲いわな」においてエゾシカが捕獲された場合は、「大規模仕切柵による囲いわな捕獲」の実施として回数を計上することとした。実施詳細については「1-4.簡易囲いわなによる試行捕獲」(P.45)を参照のこと。

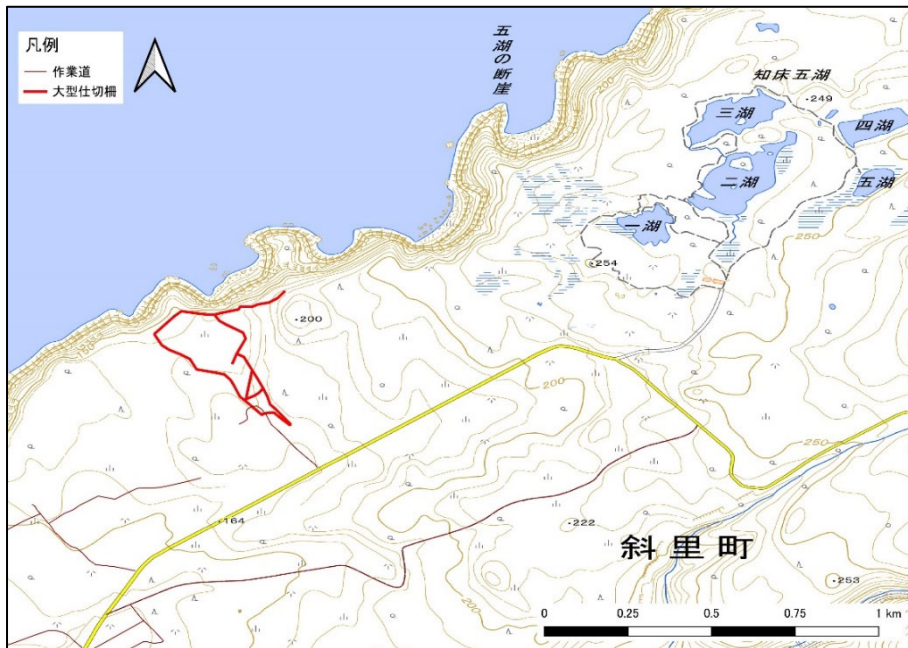


図 1-2. 大型仕切柵の設置位置

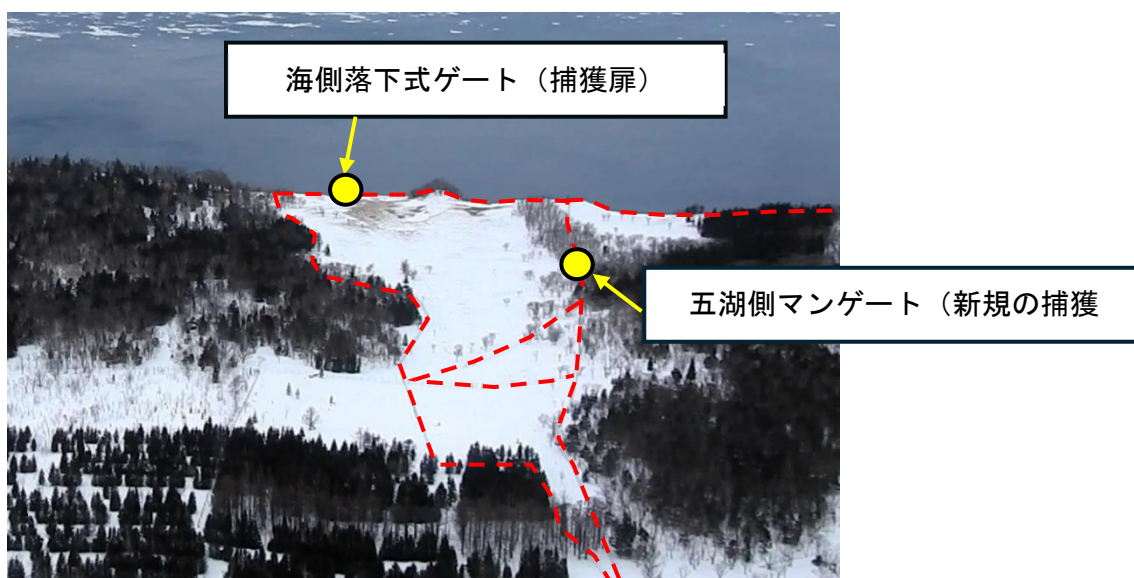


写真 1-1. 大型仕切柵の設置位置（赤破線）

大型仕切柵による囲いわなの捕獲機構

本業務では、新規の試みとして、五湖側の既存マンゲート（以下、五湖側マンゲート）を利用した捕獲を実施した（写真 1-2）。昨年度の同業務にて、五湖側の既存マンゲートを開放しシカの誘引を試行したところ、多数のシカの出入りが確認されたことから同扉を用いた捕獲実施に至ったものである。

従来、大型仕切柵では、海側落下式ゲート（以下、海側ゲート）にて、仕切柵内に設置したけり糸にシカが接触することで捕獲機構が作動し、扉が落下する「けり糸方式」を用いていたが、今回は、五湖側マンゲートに遠隔操作トリガー（有限会社日本一安い毘の店製品）を取り付け、離れた位置からリモコンで任意で扉を閉める「遠隔操作トリガー方式」を導入した（写真 1-3）。なお、海側ゲートについては、実際の捕獲時には使用しなかったが、遠隔操作トリガーを用いた扉の閉鎖試験を実施した。



写真 1-2. 捕獲に使用した五湖側マンゲート。写真右の脚立に遠隔操作トリガーを配置（赤丸部）。



写真 1-3. 五湖側マンゲートに装着した遠隔操作トリガー（赤丸部）

仕切柵の点検及び簡易補修

仕切柵の点検および簡易、捕獲期間中に破損等が確認できた場合に都度補修を行った（写真 1-4）。また日常的な点検は、誘引作業と同時に行った。自動撮影カメラの電池交換及びデータ回収については、必要に応じて適宜実施した。



写真 1-4. 仕切柵の不具合を修繕する様子（1月18日）

仕切柵の稼働期間と餌による誘引作業

仕切柵は12月10日に稼働（誘引）を開始し、2月20日に稼働を停止した（わなを停止した）。シカの仕切柵への警戒心を軽減する目的で、誘引の開始から捕獲待機状態までは一定の馴化期間を設けた。誘引餌には乾草ブロック（ルーサンハイパール：マメ科牧草のアルファルファを約30kg単位でブロック状にしたもの。以下同じ。）を使用した。なお、過年度は捕獲機構に「けり糸方式」を採用していたこともあり、誘引餌は捕獲扉の近辺に配置していたが、本業務では、より多数のシカを柵内に留め捕獲効率を高めることを目的として、仕切柵の中央付近に誘引餌を配置する方法に変更した（写真1-5）。



写真 1-5. 仕切柵中央付近に配置した誘引餌の乾草ブロック（黄丸部）。

誘引状況のモニタリング及び捕獲状況の把握

仕切柵内外のシカの誘引状況および捕獲状況を把握するために、自動撮影カメラを 3 台設置した（写真 1-6）。自動撮影カメラは、画像メール送信機能付きのハイクカム SP4G または LS4G（共に株式会社ハイク）を用い、メール送信された画像を基に仕切柵内のシカの動向や遠隔操作トリガーによるゲートの閉鎖状況の確認などを行った（写真 1-7）。なお、3 台のうち 1 台は、後述の簡易囲いわは捕獲に用いた自動撮影カメラとも兼用している。



写真 1-6. 使用した自動撮影カメラ（ハイクカム LS4G）



写真 1-7. 海側ゲート外側に設置した自動撮影カメラから送信された画像（2月18日）

捕獲個体の止め刺し・搬出

捕獲の有無の確認は、自動撮影カメラから送信される画像をもとに毎日行い、捕獲扉の落下が確認された場合は、現地に赴き捕獲状況の確認を行った。シカの捕獲が確認された場合には、銃器を使用して止め刺しを実施した（写真 1-8）。捕獲個体はスノーモビルを用いて柵外へ搬出し（写真 1-9）、シカ利活用施設に無償で引き渡した（参考資料 3、以下同じ）。または、シカ利活用施設が受け入れを停止していた場合等は、一時的に保管した後、処分費用（シカ 1 頭当たり税抜き ¥6,500。以下同じ）を支払ってレンダリング事業者に引き渡した。捕獲個体の搬出は、止め刺しを行う射手と捕獲個体の運搬を行う従事者の計 2 名以上で行うことを基本とした。



写真 1-8. 銃器を使用した止め刺しの様子 (2月20日)



写真 1-9. スノーモビルを用いた搬出 (1月22日)

(2) 実施結果

誘引捕獲・わなの点検等実施状況

大型仕切柵では、誘引給餌作業を計14回実施した。使用した誘引餌は15.6ブロック（計468kg）であった。計3回の捕獲とともに止め刺し・搬出作業を計5回実施した（表1-1）。なお、ここでは、捕獲扉等を閉鎖しシカを仕切柵内に閉じ込めた状態にすることを1回の「捕獲」とした。捕獲期間を通じて、仕切柵内の餌に誘引されたのは主にオスの群れが中心であったが、自動撮影カメラの画像からメス成獣の出入りも多数確認されている（写真1-10）。

表 1-1. 捕獲等作業の実施状況一覧

実施日	作業内容				備考
	誘引給餌	点検	捕獲 (扉等閉鎖)	止め刺し 搬出	
12月10日	○	○			海側ゲートおよび五湖側マンゲートを開放し誘引開始。給餌。自動撮影カメラを設置。
12月17日	○				
12月24日	○	○			自動撮影カメラメンテナンス。
1月7日	○	○			五湖側マンゲートにて遠隔操作トリガータスト。
1月15日	○				
1月17日	○	○			海側ゲートを閉鎖。五湖側マンゲートのみ開放状態（馴化）。自動撮影カメラを追加設置。
1月18日		○	○		遠隔操作にて五湖側マンゲートを閉鎖。囲い込み完了。柵内に22頭確認。仕切柵補修を実施。
1月21日	○			○	柵内に12頭確認（未使用の扉が開いていたため10頭逃走）。同日は5頭を捕獲搬出。残り7頭は後日。
1月22日	○			○	残り7頭を捕獲搬出。捕獲扉は捕獲待機状態で再セット。海側ゲートおよび五湖側マンゲートを開放（馴化）。
1月24日	○				
1月31日	○				
2月1日		○			海側ゲートにて遠隔操作トリガーを移設。
2月4日			○	○	海側ゲートと五湖側マンゲートを手動にて閉鎖。12頭の囲い込み完了。同日は4頭を捕獲搬出。残り8頭は後日。
2月5日	○			○	残り8頭を捕獲搬出。海側捕獲扉および五湖側マンゲートを開放（馴化）。
2月6日	○				
2月8日	○	○			海側ゲートにて遠隔操作トリガータスト（良好に作動）。同ゲート閉鎖。
2月18日	○		○		簡易囲わな準備作業時に大型仕切柵内にシカ2頭を確認。手動にて閉鎖。2頭の囲い込み完了。
2月20日				○	2頭を捕獲搬出。今期の捕獲終了。
2月21日					各資材等を撤収。海側ゲートおよび五湖側マンゲートは開放状態とした。



写真 1-10. 仕切柵の中央部に配置した誘引餌に集まる雌雄混合のシカの群れ（1月19日）

捕獲結果

12月10日から2月20日までの72日間（3トラップナイト（注1：以下、TNと表記））で計26頭のシカを捕獲した（表1-2）。捕獲個体のうち3頭がメス成獣であった。

捕獲3回の内訳について、1回目は、五湖側マンゲートに設置した遠隔操作トリガーを作動させ扉を閉鎖した。2回目は、遠隔操作トリガーを移設中だったため、五湖側マンゲートおよび海側ゲートを手動にて閉鎖した。3回目は、並行して実施している簡易囲いわなの準備作業時に大型仕切柵内にシカを確認したため出入口を封鎖し捕獲状態とした（注2）。

注1：1TNとは1基のわなを1日（夜）稼働させた状態を指す。遠隔操作トリガーや手動で扉等を閉鎖した場合は、任意で実行できる手法のため便宜的に1TNとしてカウントした。

注2：本業務において、「大型仕切柵による囲いわな」と「簡易囲いわな」両方を同時に捕獲可能状態とすることはせず、それぞれ独立した形で捕獲作業を実施した。

表 1-2. 仕切柵での捕獲結果一覧

捕獲日	メス成獣	オス成獣	メス0歳	オス0歳	計	止め刺し・搬出日
1月18日	3	5	1	3	12	1/21および1/22
2月4日	0	12	0	0	12	2/4および2/5
2月18日	0	2	0	0	2	2/20
計	3	19	1	3	26	

※. 捕獲日は、捕獲扉等を閉鎖しシカを仕切柵内に閉じ込めた状態にした日とした。

(3) まとめ・考察

本業務において、岩尾別地区の仕切柵を用いて捕獲したシカは計 26 頭であり、15 シーズンの累計捕獲数は 353 頭（うちメス成獣は 99 頭）となった（表 1-3、図 1-3）。

仕切柵は、従来から捕獲圧をかけることが出来ていないイダシュベツ川河口付近（知床五湖の北東側約 2.5km）に生息しているシカが移動・分散することで流入するオス成獣の群れを捕獲している可能性が示唆されていた（公益財団法人知床財団, 2020a）。ただし、2024 年度の冬期において、試行的に五湖側マンゲートを開放・給餌したところ、メスの群れ 11 頭が確認されるなど、ある一定数のメスの群れも近隣にはいることも判明している。

さらに、昨年度事業において、有識者（エゾシカ WG 稲富委員）からは、「広い面積を有する大型仕切柵の利点を活かす捕獲手法として、誘引餌を可能な限り仕切柵中央に配置することでシカを柵内に留めることができれば、より捕獲効率を高められるのではないかと」の提案をいただいていた。

これらを踏まえ、本業務では、新たな試みとして、五湖側マンゲートを初めて捕獲扉として使用し、かつ誘引餌を仕切柵中央部に配置する手法を取り入れ捕獲に当たったところ、3 回の捕獲機会ですべて 26 頭のシカを捕獲することに成功した。本業務では、実際の捕獲には使用しなかったが、海側ゲートにおいても閉鎖試験の結果、遠隔操作トリガーは良好に稼働することを確認している。

今回初めて導入した遠隔式トリガーは、リモコンからの有効範囲が 200m 程度であり、かつトリガーとリモコン間に起伏がある場合は電波が遮られ作動はしない点などがあるが、十分に実用レベルであることが確認された。

よって、これらの新たな手法と取り入れることで、大型仕切柵を用いた捕獲は、より安定的かつ状況によっては大量捕獲も可能となる有効な手法となることから、今後も仕切柵を活用した捕獲方法に工夫を加えながら、継続して運用していくことが望ましい。

表 1-3. 仕切柵での捕獲数の推移（2014～2026 年度）

捕獲年月	メス成獣	オス成獣	0歳	計
平成26(2014)年	2月 5	1	3	9
(2013シカ年度)	3月 21	4	10	35
	4月 30	4	9	43
2013シカ年度小計	56	9	22	87
平成27(2015)年	1月 1	3	2	6
(2014シカ年度)	2月 15	5	10	30
	3月 0	3	0	3
	4月 2	2	0	4
	5月 3	0	0	3
2014シカ年度小計	21	13	12	46
平成28(2016)年	1月 2	6	1	9
(2015シカ年度)	2月 4	7	6	17
	3月 0	1	0	1
	4月 3	1	1	5
	5月 0	0	0	0
2015シカ年度小計	9	15	8	32
平成29(2017)年	1月 0	11	0	11
(2016シカ年度)	2月 0	1	0	1
	3月 0	0	0	0
	4月 0	0	0	0
	5月 1	0	0	1
2016シカ年度小計	1	12	0	13
平成30(2018)年	1月 1	3	1	5
(2017シカ年度)	2月 0	1	0	1
	3月 0	0	0	0
	4月 0	2	0	2
2017シカ年度小計	1	6	1	8
平成31(2019)年	1月 0	4	0	4
(2018シカ年度)	2月 0	5	0	5
	3月 0	4	0	4
2018シカ年度小計	0	13	0	13
令和2(2020)年	2月 0	2	0	2
(2019シカ年度)	3月 0	3	0	3
2019シカ年度小計	0	5	0	5
令和3(2021)年	1月 0	8	0	8
(2020シカ年度)	2月 0	5	0	5
	3月 0	5	0	5
2020シカ年度小計	0	18	0	18
令和4(2022)年	1月 0	4	0	4
(2021シカ年度)	2月 5	9	5	19
	3月 0	29	0	29
	4月 2	12	0	14
2021シカ年度小計	7	54	5	66
令和5(2023)年	12月 0	2	0	2
(2022シカ年度)	1月 0	9	0	9
	2月 0	3	0	3
	3月 0	3	0	3
2022シカ年度小計	0	17	0	17
令和6(2024)年	1月 0	2	0	2
(2023シカ年度)	2月 1	7	0	8
2023シカ年度小計	1	9	0	10
令和7(2025)年	12月 0	3	0	3
(2024シカ年度)	1月 0	8	0	8
	2月 0	1	0	1
2024シカ年度小計	0	12	0	12
令和8(2026)年	1月 3	5	4	12
(2025シカ年度)	2月 0	14	0	14
2025シカ年度小計	3	19	4	26
合計	99	202	52	353

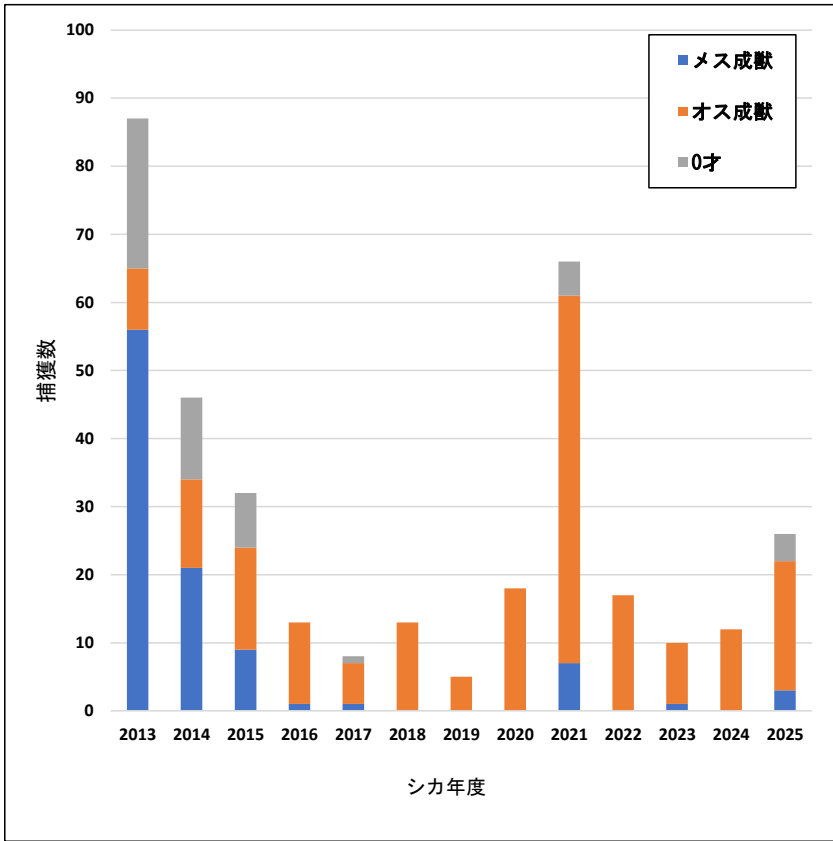


図 1-3. 仕切柵での捕獲数推移 (2013~2025 シカ年度)

1-2. 待ち伏せ式狙撃等による銃猟捕獲

幌別-岩尾別地区では2011シカ年度以降、様々な手法によってシカの捕獲が実施されてきた。試行した捕獲手法を時系列順に並べると、流し猟式 SS、囲いわな、くくりわな（2011シカ年度に試行後6年間中断し2018シカ年度より再開）、仕切柵、待機狙撃、誘引待機狙撃、箱わなである。これらの捕獲取組により、同地区ではシカの大幅な低密度化に成功したが、冬期も観光利用が盛んな場所など、十分な捕獲圧をかけられていない場所が一部存在している。さらに、隣接するイダシュベツ地区（知床五湖の東側）から新たな個体が今後流入してくる可能性が懸念されている（公益財団法人知床財団, 2020a）。エゾシカの個体数調整を行う上で、子を産むメス成獣の捕獲は効果的であることはエゾシカ管理に係る既存の研究やガイドラインでも言及されている。銃猟はわなによる捕獲と異なり、捕獲対象個体を取捨選択しやすいため、出現したシカの群れの中からメス成獣を優先して捕獲できることから、シカの低密度状態を維持するうえで有効な捕獲手法である。

今年度も従来と同様に、安全管理および国立公園利用との調整を徹底し、岩尾別ふ化場周辺、岩尾別台地上において誘引狙撃を実施した。厳冬期におけるふ化場周辺における銃器を用いた捕獲は12シーズン目、台地上の待ち伏せ式狙撃は10シーズン目の実施となる。

(1) 実施方法

銃猟の実施場所

誘引狙撃は岩尾別地区のうち、岩尾別川河口付近及び岩尾別大型仕切柵西側の岩尾別台地上に設置したハイシート A・C およびブラインド α・D・E の計5か所で待ち伏せ式狙撃等を実施した（図1-4）。

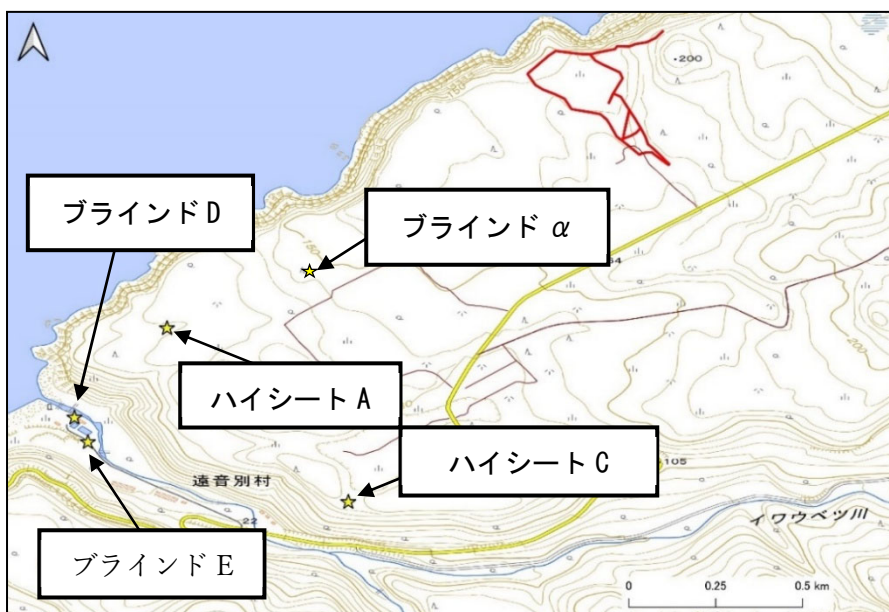


図1-4. 岩尾別地区における誘引狙撃を実施したハイシート及びブラインド等の位置

使用資材等

過年度の業務を参考に、ハイシート 2 基とブラインド α を岩尾別台地上に、ブラインド D・E を岩尾別川河口周辺に設置し、捕獲作業を実施した（写真 1-11）。捕獲地でのシカの誘引状況を把握するため、最大 4 台の自動撮影カメラを設置した（写真 1-12,1-13）。



写真 1-11. 待ち伏せ式狙撃に使用した簡易ハイシートおよびブラインド



写真 1-12. α 地点に設置した自動撮影カメラ（12月18日）



写真 1-13. 自動撮影カメラによって撮影された α 地点の餌場の様子（1月19日）

餌付け誘引

シカの餌場への誘引作業は、岩尾別ふ化場で12月10日より、岩尾別台地上では12月18日より開始した。その後、2月17日までに計25回の餌付け誘引作業を行った（写真1-14, 1-14, 表1-4）。誘引餌には、乾草ブロック計38個（約1,140kg）を使用した。



写真 1-14. 岩尾別ふ化場対岸の餌場で実施した餌付け誘引作業（1月9日）



写真 1-15. ハイシート C の餌場で実施した餌付け誘引作業 (12 月 24 日)

表 1-4. 餌付け誘引の実施状況

No.	日付	餌付け量		合計餌量 (個)
		岩尾別ふ化場	岩尾別台地上	
1	12月10日	1	0	1
2	12月18日	0	2	2
3	12月19日	1	1	2
4	12月23日	1	0	1
5	12月24日	0	3	3
6	1月6日	1	0	1
7	1月7日	0	3	3
8	1月8日	0.5	0	0.5
9	1月9日	0.5	0	0.5
10	1月12日	3	0	3
11	1月13日	1	0	1
12	1月15日	1	0	1
13	1月16日	1	0	1
14	1月18日	1	3	4
15	1月21日	0	1	1
16	1月23日	0	2	2
17	1月25日	1	1	2
18	1月27日	0.5	0	0.5
19	1月28日	0	1	1
20	2月1日	0	1.5	1.5
21	2月3日	0	1.5	1.5
22	2月8日	0	1	1
23	2月10日	0	2	2
24	2月16日	0	1	1
25	2月17日	0	0.5	0.5
		13.5	24.5	38.0

事前周知・安全確認の方法

道道知床公園線の岩尾別ゲートより先（冬期閉鎖区間）および岩尾別ふ化場周辺において銃器を用いたシカの捕獲事業を実施する旨をウトロ地区の観光や住民の関係者・関係施設にポスターで掲示した。また、捕獲作業実施日の前日に域内の観光関係者や事業者に対してメールやファックスで周知した。

捕獲作業の開始前には、捕獲エリアやその周辺に立入者がいないことを射手と監視員が十分に確認した。また、捕獲作業の実施時は利用者の立ち入りを防ぐために、捕獲エリアへの人の進入路となる作業道の入口に監視員 1～2 名を配置した（写真 1-16）。



写真 1-16. 捕獲実施時の作業道入り口の状況（1月9日）

捕獲実施日時と実施場所

捕獲作業は、1月9日以降の毎週火曜と金曜の週2回実施することを基本とした（表1-5）。実施の可否は前日に天候等を勘案して決定した。また、当日の捕獲の実施場所については、各捕獲エリアの餌場に設置した自動撮影カメラによる画像データや現地の痕跡の有無を事前に確認し、状況に応じて適当な捕獲地を選択した。

表 1-5. 待ち伏せ式誘引狙撃等の実施日時と実施場所

	日付	実施場所	開始時間	終了時間	実施時間(分)	射手人数
第1回	1月9日	岩尾別ふ化場	15:00	16:00	60	2
第2回	1月13日	岩尾別ふ化場	13:45	15:30	105	2
第3回	1月16日	岩尾別ふ化場	13:00	15:00	120	2
第4回	1月23日	岩尾別台地上	14:30	16:00	90	2
第5回	1月27日	岩尾別ふ化場	14:15	15:45	90	2
第6回	2月3日	岩尾別台地上	13:30	16:00	150	2
第7回	2月10日	岩尾別台地上	13:10	16:30	200	2
第8回	2月17日	岩尾別台地上	13:45	16:30	165	1
	合計				980	15

捕獲方法

誘引狙撃は以下の手法で行った。

1. 捕獲は射手1～2名、監視員兼回収係2～4名の計3～6名による実施を基本とした。
2. 捕獲実施に際し、射手はハイシートまたはブラインド内に潜伏・待機した。誘引地点へのシカの出現数が最大となるタイミングを見極めた後、頭部および頸部を狙点とした射撃を行った（写真 1-17）。ただし、射撃距離が 120m を超える遠距離の場合や、藪等の障害物により視界が不鮮明な場合は、失中や半矢（非致命的な負傷）による逃走リスクを回避するため、より確実に致命傷を与えられる前胸部へと狙点を変更した。
3. 捕獲数を増やすため、各餌場へのシカの誘引状況に応じて捕獲エリアを選択した。
4. 射手は射撃精度の高いライフル銃を用いて、餌場に出現したシカをハイシートまたはブラインドから射撃し可能な限り多数を捕獲するよう努めた。
5. 射手は、ライフル銃所持者 6 名が交代で務めた。
6. 複数のシカが出現した場合は、メス成獣の捕獲を優先した。また、オスや 0 歳のみが餌場に出現し、メス成獣が餌場に現れる可能性がある場合には発砲を見送った。
7. 監視員（捕獲個体の回収作業員を兼ねる）は捕獲エリアの入口で待機し、捕獲があった場合は速やかに死体を回収した。捕獲個体の回収や餌付け誘引作業には、スノーモビルや車両に取り付けた巻き上げ機を用いた。
8. 回収した捕獲個体は、当日中にシカ利活用施設に無償で引き渡すことを基本とし、シカ利活用施設が受け入れを停止していた場合は、一時的に保管した後、処分費用を支払ってレンダリング事業者引き渡した。



写真 1-17. ハイスシートで待機する射手の様子(1月23日)

(2) 実施結果

1月9日から2月17日の期間中に計8回の銃猟を実施し、計42頭のシカを捕獲した(表1-6)。捕獲した42頭のうち、メス成獣は17頭であり、捕獲個体の約40%を占めた。射手の待機時間は計1795分(29.9時間)で、捕獲1回あたりの捕獲数は2~7頭(平均5.2頭/回)、射手1名の待機時間あたりの捕獲数(捕獲効率)は1.4頭/hrであった。

実施場所別の捕獲結果については、岩尾別ふ化場で計21頭(うちメス成獣8頭)を捕獲し、捕獲効率は1.7頭/hr、岩尾別台地上では計21頭(うちメス成獣9頭)を捕獲し、捕獲効率は1.4頭/hrであった。

表 1-6. 待ち伏せ式誘引狙撃で捕獲されたシカの内訳と射手1名待機時間あたりの捕獲頭数

場所	実施回数	日付	メス成獣	オス成獣	メス0歳	オス0歳	合計	射手1名
								待機時間あたりの 捕獲頭数(頭/hr)
岩尾別ふ化場	第1回	1月9日	2	1	0	0	3	1.5
	第2回	1月13日	3	2	1	0	6	1.7
	第3回	1月16日	1	2	0	2	5	1.3
	第5回	1月27日	2	2	2	1	7	2.3
	小計		8	7	3	3	21	1.7
岩尾別台地上	第4回	1月23日	4	1	1	0	6	2.0
	第6回	2月3日	3	3	0	1	7	1.4
	第7回	2月10日	0	2	0	0	2	0.3
	第8回	2月17日	2	2	2	0	6	2.2
	小計		9	8	3	1	21	1.2
合計		17	15	6	4	42	1.4	

射手の待機中にシカが餌場に出現した回数（捕獲機会）は計 29 回あり、1 回あたりの出現頭数は 1～20 頭であった（表 1-7）。捕獲機会 29 回のうち、捕獲に至ったのは 23 回であり、それぞれ 1 頭～4 頭の捕獲があった。捕獲に至らなかった 6 回は、発砲前にシカに気付かれ逃走されたケースが 5 回、発砲したものの失中して逃走されたケースが 1 回であった。なお、捕獲に至った場合でも、10 頭以上の多頭出現があった 3 回のケースでは、捕獲頭数は計 8 頭であり、その他の大多数（計 34 頭）は逃走したという結果となっている。

表 1-7. 待ち伏せ式誘引狙撃等におけるシカの出現数と捕獲数

No.	実施回	日付	実施場所	時刻	出現頭数	発砲	捕獲頭数	備考	
1	1	1月9日	岩尾別ふ化場	15:00	20	有り	3	多頭出現。発砲にて大多数は逃走。	
2	2	1月13日	岩尾別ふ化場	13:35	3	有り	2		
3				15:00	5	有り	4		
4	3	1月16日	岩尾別ふ化場	13:00	8	有り	3		
5				14:40	3	有り	2		
6	4	1月23日	岩尾別台地 (ハイシートA)	14:45	5	有り	3		
7				15:30	10	なし	0	物音に気付かれ発砲前に逃走。	
8				15:50	10	有り	1	多頭出現。発砲にて大多数は逃走。	
9				14:35	1	有り	1		
10	5	1月27日	岩尾別ふ化場	15:15	2	なし	0	発砲前に警戒音を上げ逃走。	
11				16:00	8	有り	1		
12				14:20	12	有り	4	多頭出現。発砲にて大多数は逃走。	
13	6	2月3日	岩尾別台地 (ハイシートA)	15:10	3	有り	3		
14				14:20	1	有り	1		
15				15:30	2	有り	1		
16				14:15	4	有り	1		
17				14:25	1	有り	1		
18				15:25	1	有り	1		
19	7	2月10日	岩尾別台地 (ハイシートC)	16:00	5	有り	2		
20				(α 地点)	16:00	10	なし	0	人の接近に気付かれ逃走。
21				13:30	1	なし	0	物音に気付かれ発砲前に逃走。	
22				16:00	8	なし	0	物音に気付かれ発砲前に逃走。	
23	8	2月17日	岩尾別台地 (ハイシートA)	14:00	1	有り	1		
24				16:00	2	有り	1		
25				14:00	8	有り	0	1頭失中。半矢で逃走。	
26	8	2月17日	岩尾別台地 (ハイシートA)	14:15	1	有り	1		
27				14:30	2	有り	1		
28				15:15	2	有り	2		
29				15:30	2	有り	2		
					141	合計	42		

(3) まとめ・考察

本業務では、待ち伏せ式狙撃等を計 8 回の実施し、合計 42 頭（うちメス成獣 17 頭）のシカを捕獲した。1 回あたりの平均捕獲頭数は 5.2 頭であり、射手 1 名待機時間あたりの捕獲数（捕獲効率）は 1.4 頭/hr であった。昨年度（0.7 頭/hr）と比較すると 2 倍の捕獲効率を計上する結果となった。これは、昨年度より捕獲効率を高めることを目的として 12 月中に誘引を開始し、1 月上旬から銃猟を開始するなど手法を改善した結果も理由の一つとして考えられるが、今年度の関しては、より強い要因として気象条件やエゾシカの生息動態の影響した可能性が高い。

例えば、今期は 12 月中に 2 度にわたり重く湿った雪がまとまって降ったため（図 1-5）、捕獲開始以前からシカが越冬地である捕獲地点に集まりやすい状況となっていたことが要素の一つとして挙げられる。また、その後もシカによるカラマツの幼木の樹皮剥ぎが目立つなどここ数年にはなかった状況が確認されていることから、天然餌の不足がシカの誘引餌に対する依存度を強める一因となった可能性も考えられる。

今年度の幌別一岩尾別地区では、各手法の捕獲数を合計すると、当初目標数（28 頭）を大きく上回る 115 頭のシカが捕獲されたが、捕獲期間中は基より捕獲期間終了後も多数のシカが確認されていることから（表 1-8,1-9）、依然として多くのシカが残存している状況となっている。

現在、当該地区のシカ対策は低密度化状態を前提として実施されているが、航空センサス調査の結果等も踏まえ、モニタリングと実際の乖離が起これぬよう総合的に勘案し、状況に即した捕獲手法の選択や実施規模の適正化を図るなど、機動的かつ順応的な管理を行うことが求められる。

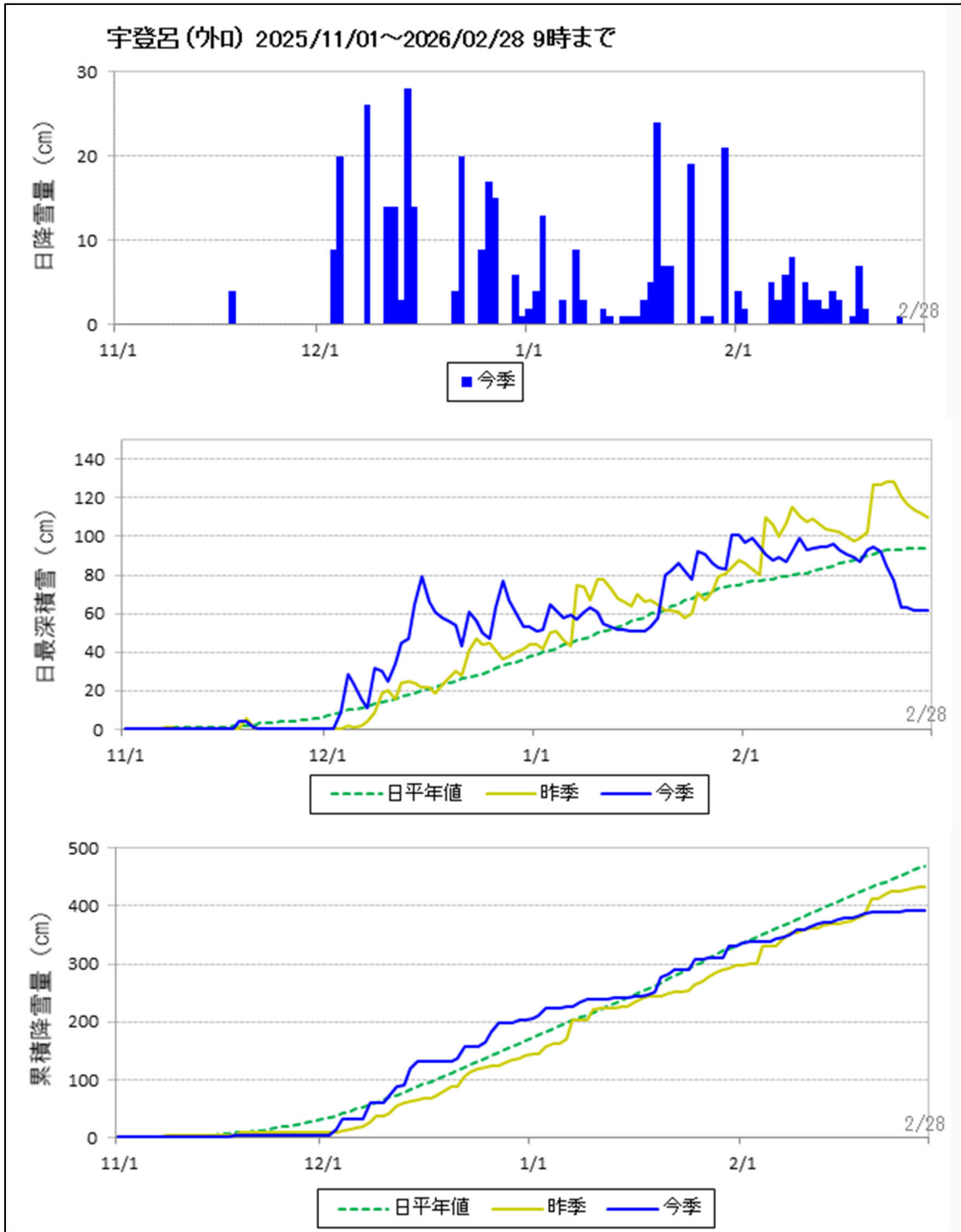


図 1-5. 斜里町ウトロの日最深積雪の推移

(参考：気象庁札幌管区气象台 HP, 「北海道の積雪状況推移グラフ(ウトロ)」,
<https://www.data.jma.go.jp/risk/obsdl/index.php>, 2026年2月28日)

表 1-8. 自動撮影カメラで確認したシカの出現状況（岩尾別ふ化場）

日付\Ts	7:00		8:00		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		
	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	最大頭数	メス最大	
12/13																					
12/14							2	1	2			7	3	3	1	3		5	2		
12/15															2		4	1	1		
12/16						2		6	7	3	6	2	9	4	5	2	15	4	3		
12/17	1						2	1	3	1	4	3	6	1	7	2	8	2	6	1	
12/18							1		2	1	1		3	2	4	1	6	2	1		
12/19					9		4		7		5	4	6	5	8	1	10	3	9	2	
12/20	5	3	3		1		1		3	1	3	1	7	1	5	1	10	1	7	0	
12/21	1	0	1	0	1	0															
12/22																					
12/23			1				1	0	1	0	4	0	10	1	9	1	22	4	7	1	
12/24	3	0	3	0	3	0	1	0	3	0	12	4	8	1	8	2	8	1	5	0	
12/25	4	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	3	0	1	0	2	0	3	0	
12/26													1	0	1	0	2	0	5	0	
12/27															3	0	3	0	2	0	
12/28			1	0	1	0	1	0	2	0	1	0	4	1	6	3	4	1	1	0	
12/29					1	0	1	0	1	0	2	0	3	1	2	1	7	2	6	1	
12/30	2	0	3	0	2	0	1	0	2	0	2	0	2	0	7	2	6	2	2	0	
12/31																					
1/1															9	1	2	0	2	0	
1/2											1	0									
1/3																	2	1	2	1	
1/4							1	0			4	0	5	0	4	0	3	0	1	0	
1/5																	5	3	1	0	
1/6													1	0	1	0	5	3	8	3	
1/7	1	0	16	4	25	6	13	4	10	2	12	3	7	1	10	2	11	2	22	4	
1/8	1	0					6	2	11	4	18	5	14	5	16	6	17	6	8	3	
1/9							2	0	3	1			4	2	8	2	28	9	7	2	
1/10					1	0	8	2	1	0	8	2	5	1	4	1	8	2	6	2	
1/11	2	0	2	0							1	0	7	2	14	4	5	0	6	0	
1/12													1	0							
1/13							2	0	2	0	5	2	5	2	2	0					
1/14	1	0	5	2	3	1	8	3	4	1	9	3	8	3	13	5	8	2	13	4	
1/15	3	0	3	1	6	2	7	2	8	1	12	2	13	2	27	5	17	4	19	6	
1/16			1	0	7	1	12	2	7	1	8	1			2	0	1	0	14	2	
1/17					5	1	3	0	3	0	6	1	9	2	9	3	5	2	5	2	
1/18					1	0					4	1	2	0	20	6	23	6	10	3	
1/19											6	0	7	0	5	0	7	0	7	1	
1/20								1	0												
1/21													4	0	3	0	1	0			
1/22																					
1/23							1	0	1	0							6	0	6	0	
1/24							1	0					6	1			7	1	6	0	
1/25									3	0											
1/26					5	0	6	0	13	2	13	1	13	1	14	2	9	1	12	0	
1/27					2	0	1	0			6	1	9	1	12	0	3	0	10	2	
1/28	2	1					1	0											4	0	
1/29													4	0	1	0	6	0	3	0	
1/30																					
1/31													1	0	2	0	3	0	1	0	
2/1					2	0							4	0	5	0	9	0	7	0	
2/2													2	0	6	0	6	0	3	0	
2/3					4	0	1	0	5	0	5	0	5	0	5	0	5	0	7	0	
2/4							2	0									4	0	3	0	
2/5									3	1	3	1	4	1	2	1	4	0	2	0	
2/6																					
2/7															2	0	1	0	1	0	
2/8	1	0																			
2/9																					

表 1-9. 自動撮影カメラで確認したシカの出現状況（岩尾別台地ハイシート A）

日付\TS	7:00		8:00		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		
	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	最大稼数	メス最大	
12/17																					
12/18																		19	5	13	3
12/19	1	0			2	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	5	2	1	0	
12/20			2	1	2	1	3	2	1	1	1	1			5	2	5	2	2	0	
12/21	1	0			2	0	3	0	1	0	1	0			2	0	1	0			
12/22	1	0																			
12/23																					
12/24	1	0			4	2	4	2	1	0	11	3	13	4	13	3	20	5	11	1	
12/25	2	0	2	0	1	0	1	0			1	0	5	2	2	1	5	3			
12/26																	2	0	1	0	
12/27																					
12/28	1	0																			
12/29							2	0			1	0	2	0	2	1	1	0			
12/30													1	0							
12/31																					
1/1									1	0											
1/2																					
1/3																					
1/4															1	0					
1/5																					
1/6																					
1/7																	11	5	19	4	
1/8											2	0			7	4	1	0	6	3	
1/9			1	0											3	1	4	1	1	0	
1/10			1	0					2	0	1	0			3	1	2	0	2	1	
1/11	1	0	7	3	2	1	2	1	1	0			4	0	3	0			3	0	
1/12													1	0							
1/13			2	1													3	1	1	0	
1/14											1	0					1	0			
1/15			1	0																	
1/16													7	1					1	0	
1/17																	1	0	1	0	
1/18									1	0					3	1	3	1	3	1	
1/19	6	0	3	1	8	1	9	2	9	3	10	3	9	2	6	2	4	1	9	2	
1/20																					
1/21	1	0									3	0									
1/22															6	2	5	0	4	0	
1/23									1	0							3	0	9	0	
1/24	3	0	2	0	6	0	2	0			2	0			2	1	14	3	6	2	
1/25			2	0	4	2	4	1			1	0									
1/26																			4	0	
1/27	2	1	1	0													1	0	5	0	
1/28	2	1	1	1													22	7	22	6	
1/29	2	1	3	1	2	1	3	0	4	0	1	0	3	0	1	0	3	0	1	0	
1/30																			3	0	
1/31									1	0	1	0	1	1	1	1	3	2	2	1	
2/1									3	0	5	0	5	0	2	1	9	3	12	4	
2/2					2	0	2	0	1	0	1	0	1	1			4	0	2	0	
2/3											2	1							17	4	
2/4	3	0	4	0	4	0	3	0	4	2	1	0			6	3			4	2	
2/5					1	0	1	0	1	0			2	0					1	0	
2/6	1	1	2	2	1	0	2	1	2	0							1	1	3	1	
2/7																					
2/8											4	2	16	4	13	3	15	4	16	4	
2/9	3	1	3	1	4	2	2	0							2	0	1	0	3	2	
2/10					2	0	2	1									4	1			
2/11	1	0			2	0	2	0	2	1	4	2	2	0	1	0	1	0	1	0	
2/12	1	0	1	0							1	0					2	1	1	0	
2/13			2	1													2	1	6	3	
2/14																	1	0			
2/15			2	1	2	1	1	0	1	0	1	0	2	1	4	2			1	0	
2/16							4	2	4	1	5	1	11	2	23	5	17	4	22	5	
2/17	7	3	3	2			2	1	3	1	3	1					2	0			
2/18			3	0	3	0	2	1	5	2	6	0	9	2	4	1	3	1	3	0	
2/19	1	0	1	0									1	0					3	1	
2/20																					
2/21																					

1-3. くくりわなによる捕獲

幌別―岩尾別地区では2011シカ年度以降、様々な手法によってシカの捕獲が実施されてきた。試行した捕獲手法を時系列順に並べると、流し猟式 SS、囲いわな、くくりわな（2011シカ年度に試行後6年間中断し2018シカ年度より再開、その後2023シカ年度は実施せず）、仕切柵、待機狙撃、誘引待機狙撃、箱わなである。これらの捕獲により、同地区ではシカの大幅な低密度化に成功したが、冬期も観光利用が盛んな場所など、十分な捕獲圧をかけられていない場所が一部存在している。さらに、同地区内のシカの警戒心が高まっていることや、隣接するイダシュベツ地区（知床五湖の東側）から新たな個体が今後流入してくる可能性が懸念されている。

くくりわなは、多数のシカを一度に捕獲することは困難だが新規設置や移設にかかるコストが少ないため、これまで捕獲を断念していたようなアクセスの悪い場所においても捕獲を実施できる利点がある。また、警戒心が高まったシカへの対応にも適している。このような状況を踏まえて本業務では、幌別地区においてくくりわなを用いたシカの捕獲を実施した。

（1）実施方法

くくりわなの設置場所及び設置期間

本業務では、最大20基のくくりわなを用いてシカの捕獲を実施した。わなの設置場所はシカの出現状況や見回り作業の効率を考慮して選定した。設置場所は、これまでの捕獲実施状況も踏まえて、幌別川から知床自然センター間（幌別①）、自然センターから岩尾別川間（幌別②）とした（図1-6）。

くくりわなの設置状況を表1-10に示した。わなの設置期間は、1月8日から1月29日であった。シカの誘引状況や痕跡の状況に応じて設置場所内でのわなの移設を行った。設置したくくりわなは、捕獲期間の終了後に現地からすべて撤収した。



図 1-6. くくりわなの設置位置

表 1-10. くくりわなの設置状況

月日	わな数			備考
	幌別①	幌別②	合計	
1月8日 木	10	-	10	幌別①: わな設置 * 誘引は12月13日より開始
1月9日 金	10	-	10	
1月10日 土	10	10	20	幌別②: わな設置 * 誘引は12月20日より開始
1月11日 日	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭、オス1尖2頭、3尖1頭捕獲
1月12日 月	10	10	20	
1月13日 火	10	10	20	幌別①: メス0歳1頭、メス成獣1頭、オス0歳1頭捕獲 幌別②: メス0歳1頭、メス成獣1頭捕獲
1月14日 水	10	10	20	幌別①: メス0歳1頭、オス0歳1頭、1尖1頭捕獲 幌別②: オス4尖1頭捕獲
1月15日 木	10	10	20	幌別②: オス1尖1頭捕獲
1月16日 金	10	10	20	幌別①: オス0歳1頭、オス4尖1頭捕獲
1月17日 土	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭、オス0歳1頭捕獲 幌別②: オス4尖1頭捕獲
1月18日 日	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭捕獲
1月19日 月	10	10	20	幌別①: メス成獣2頭捕獲 幌別②: オス1尖1頭捕獲
1月20日 火	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭捕獲
1月21日 水	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭、オス0才1頭捕獲
1月22日 木	10	10	20	幌別①: オス1尖1頭捕獲 幌別②: メス成獣1頭、オス4尖1頭捕獲
1月23日 金	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭捕獲 幌別②: メス成獣1頭捕獲
1月24日 土	10	10	20	幌別①: メス成獣1頭、オス1尖1頭、4尖2頭捕獲
1月25日 日	10	10	20	
1月26日 月	10	10	20	幌別①: オス4尖2頭捕獲
1月27日 火	10	10	20	
1月28日 水	10	10	20	幌別①: オス4尖1頭捕獲 幌別②: オス1尖1頭捕獲
1月29日 木	-	-	-	幌別①: メス成獣1頭捕獲、捕獲終了、カメラ撤去 捕獲終了。わな撤去。
トラップナイト数	210	190	400	

※わな数：各日(夜)に設置されているわな数を、「-」はわなが設置されていないことを示す。

くくりわなの構造

本業務では、有限会社栄工業製の足くくりわな（商品名：栄ヒルズ F type）（以下、筒式くくりわな）10基、有限会社ヒットビジネス製の足くくりわな（商品名：アニマルヒット5）（以下、板式くくりわな）10基の合計20基を使用した（写真1-18,1-19）。両わなは基本的に踏み板部分と、足をくくるワイヤー部分の2つの部品に大きく分かれており、ワイヤーの末端を立ち木などの移動しないものに固定し、もう一方を踏み板部にセットして地面または雪面に設置する。対象動物が踏み板を足で踏み抜くことにより、踏み板にセットされていたワイヤーがバネの力で締まり、足をくくるという仕組みになっている。

筒式くくりわなの踏み板は、内筒と外筒から構成される高さ16cmの円筒になっており、設置には雪を16cm程度掘削する必要がある。そのため、本タイプのくくりわなは積雪の深い場所での設置に適しており、積雪の浅い場所での設置には適さない。一方、板式くくりわなの踏み板は高さ約2cmの板状のため、積雪の浅い場所では設置に問題ないが、積雪の深い場所では踏み板自体が雪に沈んでしまう場合がある。このため、積雪の深い場所では筒式くくりわなを使用し、積雪の浅い場所では板式くくりわなを使用した。



写真1-18. 本業務で使用した筒式くくりわな



写真1-19. 本業務で使用した板式くくりわな

くくりわなの設置

くくりわなは、公園利用者の目に付きにくく、シカの足跡や食痕等の痕跡が多い獣道上やその付近に主に設置した。また、安全な作業スペースを確保できる場所を可能な範囲で選定し、かつ捕獲後の搬出が困難な場所を避けて設置した（写真 1-20,1-21）。捕獲作業地への出入り口には注意看板を掲示し、公園利用者が不用意にくくりわなへ接近しないよう配慮した（写真 1-22）。

なお、シカによる獣道の利用状況が変化した場合や、わなの設置場所がシカに警戒されていると判断された場合には、適宜くくりわなを移設し、捕獲効率の維持・向上に努めた。



写真 1-20. くくりわな設置作業の様子（1月10日）



写真 1-21. くくりわなの設置に必要な標識 (1月8日)



写真 1-22. 作業地出入り口の注意看板 (1月10日)

くくりわなの見回りと点検・誘引作業

くくりわなの見回り作業は1日1回を基本とした。くくりわなの設置場所が車道沿線の場合は徒歩で見回りを実施した。なお、今年度は幌別②の設置場所も車道沿線としたため、スノーモビルは使用しなかった。見回り作業の際、くくりわなの動作不良や空捕獲（わなは作動したが、シカは捕獲されていない状態）が確認された場合は、ワイヤーやバネの破損の有無を確認した後、くくりわなを再設置した（写真 1-23）。作業中は予備のわなを持参し、破損が認められたくくりわなについては交換を行った。見回りやわなの移設時には、シカをわな周辺に誘引・滞留させるための餌として、乾草ブロックを周辺に撒いた（写真 1-24）。給餌量は餌の残り具合や積雪の状況に応じて適宜調整した。



写真 1-23. くくりわなの点検作業（1月18日）



写真 1-24. 誘引餌を配置している様子（12月20日）

誘引状況のモニタリング

捕獲実施場所におけるシカの誘引状況は、餌場付近に設置した計 6 台の通信機能付き自動撮影カメラで随時確認し、見回り時に確認された痕跡の状況によってより詳細に把握した（写真 1-25）。



写真 1-25. 幌別②に設置した自動撮影カメラ（1月10日）

捕獲個体の止め刺し・搬出

シカが捕獲されていた場合は、シカの首にロープをかけて拘束した状態で、電殺機（電気止めさし機）を用いて止め刺しを実施した（写真 1-26,1-27）。その後、大型ソリとロープ、スノーモバイル等を用いて、捕獲個体を車両のある道路まで搬出し（写真 1-28）、シカ利活用施設に無償で引き渡した。または、シカ利活用施設が受け入れを停止していた場合等は、一時的に保管した後、処分費用を支払ってレンタル業者へ引き渡した。



写真 1-26. 止め刺しに用いた電殺機



写真 1-27. 電殺機による止め刺しの様子（1月11日）



写真 1-28. 捕獲個体の搬出の様子（1月22日）

（2）実施結果

誘引捕獲・わなの設置等実施状況

くくりわなによる捕獲の状況および作業内容を表 1-11 に示す。昨年度から引き続き、捕獲効率を高めるため、12 月中からシカの誘引を目的とした給餌作業を実施した。

業務期間中に誘引のための給餌作業を幌別①にて 16 回、幌別②にて 12 回の計 28 回実施し、計 582kg（19.4 ブロック）の乾草ブロックを使用してシカの誘引作業に努めた。TN 数は、幌別①が 210TN、幌別②が 190TN の合計 400TN となった。

表 1-11. 捕獲等作業の実施状況一覧

月日	わな設置基数		捕獲数		作業内容				
	幌別①	幌別②	幌別①	幌別②	見回り	搬出	誘引	停止	その他
12月13日	-	-	-	-			●		自動撮影カメラの設置
12月14日	-	-	-	-					
12月15日	-	-	-	-					
12月16日	-	-	-	-					
12月17日	-	-	-	-					
12月18日	-	-	-	-					
12月19日	-	-	-	-			●		
12月20日	-	-	-	-			●		
12月21日	-	-	-	-					
12月22日	-	-	-	-					
12月23日	-	-	-	-			●		自動撮影カメラの設置
12月24日	-	-	-	-					
12月25日	-	-	-	-					
12月26日	-	-	-	-					
12月27日	-	-	-	-					
12月28日	-	-	-	-					
12月29日	-	-	-	-					
12月30日	-	-	-	-					
12月31日	-	-	-	-					
1月1日	-	-	-	-					
1月2日	-	-	-	-					
1月3日	-	-	-	-					
1月4日	-	-	-	-					
1月5日	-	-	-	-					
1月6日	-	-	-	-			●		
1月7日	-	-	-	-					
1月8日	10	-	0	-	●		●		自動撮影カメラの設置
1月9日	10	-	0	-	●				
1月10日	10	10	0	0	●		●		自動撮影カメラの設置
1月11日	10	10	4	2	●	●			
1月12日	10	10	0	1	●	●	●		
1月13日	10	10	3	1	●	●	●		
1月14日	10	10	3	0	●	●	●		
1月15日	10	10	0	1	●	●	●		
1月16日	10	10	2	0	●	●	●		
1月17日	10	10	2	1	●	●	●		
1月18日	10	10	1	0	●	●	●		
1月19日	10	10	2	0	●	●	●		
1月20日	10	10	1	2	●	●	●		
1月21日	10	10	2	1	●	●	●		
1月22日	10	10	1	0	●	●	●		
1月23日	10	10	1	0	●	●	●		
1月24日	10	10	4	0	●	●	●		
1月25日	10	10	0	0	●		●		
1月26日	10	10	2	1	●	●	●		
1月27日	10	10	0	0	●		●		
1月28日	10	10	1	0	●	●	●		
1月29日	-	-	1	0	●	●		●	わな撤去・自動撮影カメラ撤去
合計	210	190	30	10	22	17	23	1	

※わな数：各日(夜)に設置されているわな数を、「-」はわなが設置されていないことを示す。

※誘引回数内訳：幌別①にて16回、幌別②にて12回の計28回。

捕獲結果

幌別地区で合計 40 頭のシカを捕獲した。捕獲個体の内訳はメス成獣が 14 頭 (35.0%)、メス 0 歳が 3 頭 (7.5%)、オス成獣が 18 頭 (45.0%)、オス 0 歳が 3 頭 (12.5%) であった (表 1-12)。

くくりわなの捕獲効率 (1TN あたりのシカの捕獲数) について表 1-13 に示した。捕獲効率は幌別①で 0.14 頭/TN、幌別②で 0.05 頭/TN であった。

表 1-12. 幌別地区のくくりわなで捕獲したシカの頭数および内訳

地区	メス成獣	オス成獣	メス0歳	オス0歳	計
幌別①	11	12	2	5	30
幌別②	3	6	1	0	10
合計	14	18	3	5	40
割合 (%)	35.0	45.0	7.5	12.5	

表 1-13. 幌別地区におけるくくりわなの場所別の捕獲効率

地区	トラップナイト数	捕獲頭数	捕獲効率 (頭/トラップナイト)	うちメス成獣 捕獲頭数	メス成獣 捕獲効率 (頭/トラップナイト)
幌別①	210	30	0.14	11	0.05
幌別②	190	10	0.05	3	0.02
幌別地区計	400	40	0.10	14	0.04

(3) まとめ・考察

本業務では、幌別地区において 2 月 6 日から 2 月 18 日までの期間中に、最大 20 基のくくりわなを用いて計 40 頭 (うちメス成獣 14 頭) のシカを捕獲した。今年度は、捕獲努力量を示す TN 数は 400TN と過年度と比較して減少した。ただし、捕獲数は 40 頭であり、TN に対する捕獲数を示した捕獲効率は 0.1/TN と過年度と比較すると最も高い数値となった (表 1-14)。

捕獲効率が高い水準となった理由としては、誘引のための給餌作業を昨年度と同様に 12 月から開始したことに加え、前項にて詳述した通り、12 月の大雪などの気象条件ならびにシカの生息動態によるものも大きな要素となっているものと考えられる。

シカの捕獲数や捕獲効率に影響を及ぼす要因は上記の他にも多岐に渡る。例えば、今年度は遺産地域の隣接地区での捕獲が未実施だったことに付随して、同地区におけるシカの増加や流入が進んでいる可能性なども考えられるため (表 1-15, 写真 1-29)、今後も諸条件に合わせて適時の捕獲を継続的に実施していくことが望ましい。

表 1-14. 過年度および本年度におけるくくりわなによる捕獲頭数と捕獲効率（頭/TN）

年度	トラップナイト数	捕獲頭数（※1）	捕獲効率（※2） （頭／トラップナイト）
2018	564	36 (17)	0.06 (0.03)
2019	738	19 (7)	0.03 (0.01)
2020	1221	25 (12)	0.02 (0.01)
2021	1165	46 (15)	0.04 (0.01)
2022	665	16 (6)	0.024 (0.01)
2023	未実施	—	—
2024	240	12 (5)	0.05 (0.021)
2025	400	40 (14)	0.1 (0.04)

※1 捕獲頭数の括弧内の数値は捕獲されたメス成獣の頭数を示す。

※2 捕獲効率の括弧内の数値はメス成獣の捕獲効率を示す。

表 1-15. 自動撮影カメラで撮影されたシカの日別最多頭数

日時	曜日	幌別①			幌別②		
		最多頭数	ミス最多頭数	備考	最多頭数	ミス最多頭数	備考
12月13日	土	0	0	誘引開始・カメラ設置			
12月14日	日	2	0				
12月15日	月	6	3				
12月16日	火	4	3				
12月17日	水	3	1				
12月18日	木	3	1				
12月19日	金	3	1				
12月20日	土	10	3		2	0	誘引開始、カメラ設置
12月21日	日	5	2		1	0	
12月22日	月	4	1		7	2	
12月23日	火	11	2		5	1	
12月24日	水	8	2		9	2	
12月25日	木	4	1		6	0	
12月26日	金	2	1		1	0	
12月27日	土	1	0		0	0	
12月28日	日	2	0		2	0	
12月29日	月	2	1		1	0	
12月30日	火	1	1		0	0	
12月31日	水	2	1		0	0	
1月1日	木	2	2		0	0	
1月2日	金	2	1		0	0	
1月3日	土	1	0		1	0	
1月4日	日	0	0		1	0	
1月5日	月	1	0		1	0	
1月6日	火	1	0		1	0	
1月7日	水	13	3		2	0	
1月8日	木	11	2	捕獲開始	9	4	
1月9日	金	7	2		7	2	
1月10日	土	6	2		4	1	捕獲開始
1月11日	日	6	3	4頭捕獲	6	1	
1月12日	月	6	1		1	0	
1月13日	火	13	3	3頭捕獲	2	0	2頭捕獲
1月14日	水	6	1	3頭捕獲	3	1	1頭捕獲
1月15日	木	4	0		3	0	1頭捕獲
1月16日	金	5	1	2頭捕獲	3	1	
1月17日	土	3	1	2頭捕獲	3	1	1頭捕獲
1月18日	日	5	1	1頭捕獲	3	1	
1月19日	月	2	1	2頭捕獲	2	1	1頭捕獲
1月20日	火	2	1	1頭捕獲	2	0	
1月21日	水	2	0	2頭捕獲	3	0	
1月22日	木	3	0	1頭捕獲	1	0	2頭捕獲
1月23日	金	1	0	1頭捕獲	2	1	1頭捕獲
1月24日	土	4	2	4頭捕獲	1	0	
1月25日	日	1	0		3	1	
1月26日	月	2	0	2頭捕獲	4	1	
1月27日	火	6	1		5	1	
1月28日	水	3	1	1頭捕獲	3	0	1頭捕獲
1月29日	木	0	0	1頭捕獲、捕獲終了、撤去	0	1	捕獲終了、撤去
シカ撮影日数		46			35		
(のべ撮影日数)		48			41		

※ 「最多頭数」は雌雄全てを含んだ群れ単位の最多頭数。「メス最大頭数」は群れ単位ではなくメスのみを抽出した場合の最多頭数。

※ 青色セルはシカが確認された日を示す。赤字は地区ごとの最多確認数を示す。

※ シカの捕獲記録については、集計に用いた自動撮影カメラの撮影範囲外の捕獲も含む。



写真 1-29. くくりわな設置場所付近の餌場に誘引されたシカの群れ（1月7日）

1-4. 簡易囲いわなを用いた試行捕獲

知床世界自然遺産地域で過年度に実施されてきたシカの捕獲手法の一つに、複数頭のシカを捕獲し生体搬出することを目的とした囲いわな捕獲がある。この捕獲手法においては、2011年シカ年度から2017年度にかけて幌別-岩尾別地区において運用され、一定の捕獲実績があったものの、同一の囲いわなで複数年にわたり捕獲を継続したことに起因してシカがわなを忌避・学習（トラップシャイ）し、運用年数を重ねるごとに捕獲数が減少した経過がある。

本業務では、これまでの検討や幌別-岩尾別地区・知床岬地区で行われた試行捕獲の成果を受けて、簡易囲いわなを効果的な捕獲手法として確立するために、積雪期の岩尾別地区にて大型仕切柵の既存マンゲートを活用した簡易囲いわなによる試験捕獲を実施した（図1-7）。

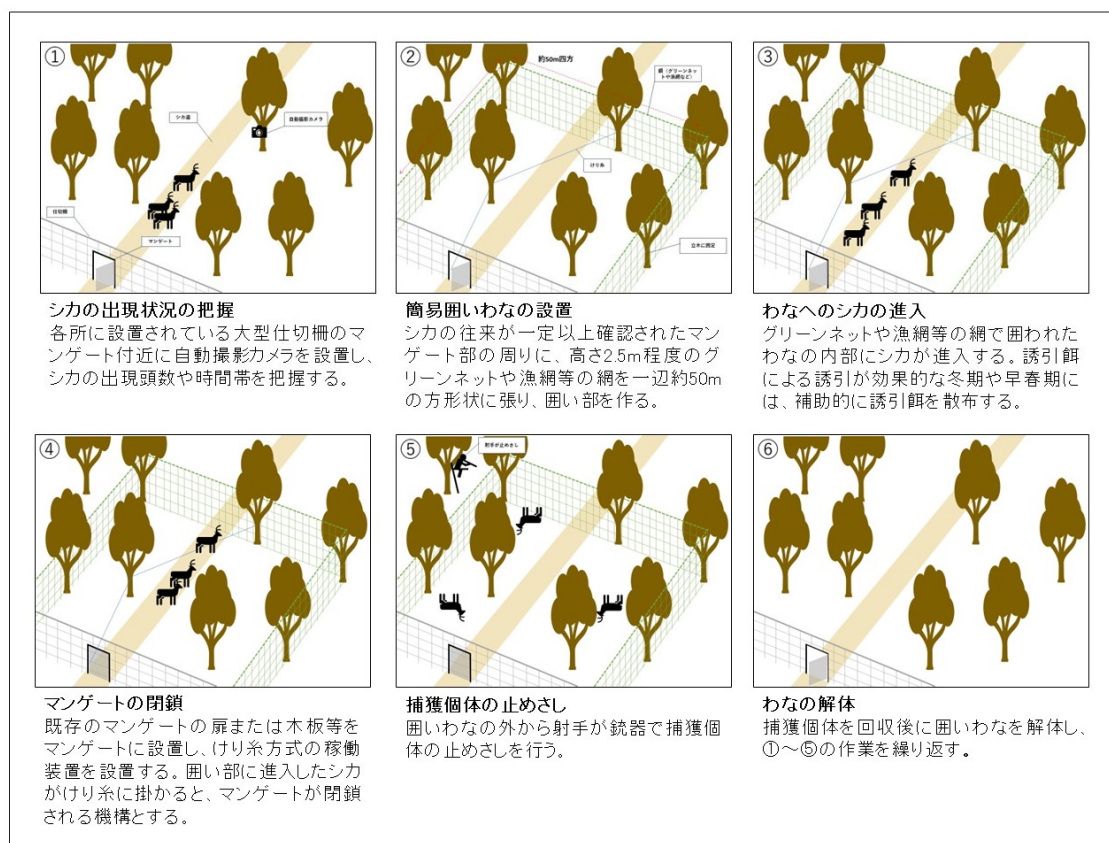


図1-7. 簡易囲いわなの構造及び運用方法

(1) 実施方法

簡易囲いわなの基本概要

今回試行した簡易囲いわなは、岩尾別地区の大型仕切柵の既存マンゲートを活用する形で設置した(図 1-8,写真 1-30)。追加設置した囲いわな部は、人力による運搬と設置が可能な簡易的な資材を用いることで、少人数かつ短時間での設置が可能な構造とした。なお、同囲いわなは、「大型仕切柵による囲いわな」の一部を利用していることから、それぞれの運用について、集計結果等の重複を避けるため、環境省担当官と協議の上、「大型仕切柵による囲いわな」の稼働中に「簡易囲いわな」においてエゾシカが捕獲された場合は、「大型仕切柵による囲いわな捕獲」の実施として回数を計上することとした。



図 1-8. 簡易囲いわな(黄色線)で活用した既存マンゲート(黄色丸)の位置。



写真 1-30. 捕獲扉として活用した既存マンゲート(写真手前が仕切柵内側)

簡易囲いわなの構造

簡易囲いわなは約 20m 四方、地上面から高さ約 2m で構成し、1 辺は既存の仕切柵金網フェンスを利用し、3 辺の囲い部にはグリーンネットを用いた (図 1-9)。囲い部 1 辺のグリーンネットは、長さ 30m、幅 2m、網目約 3cm の既製品を用い。さらにシカのくぐり抜け防止策として、囲い部の外壁となる 2m ネットにスカート部として幅 1m のネットを継ぎ足し、幅約 3m のネットを作成し使用した。なお、この仕様のネットの作成は渡航前に行い、現場では運搬と設置作業のみ行えるよう段取りした。設置に当たっては、立木にロープで固定し囲い部を構築した (写真 1-31, 写真 1-32)。

シカの進入口には既存の一段式扉の片開きマンゲート (写真 1-33) をそのまま用い、マンゲートの扉部にロープと重りを繋ぐことで常時閉鎖される機構とした。わなの捕獲装置については、開放状態のマンゲート扉部にワイヤーを接続し、わな中央部まで引いたワイヤーの末端を立木に固定した。ワイヤーの末端にシカが接触すると扉部に接続されたワイヤーが外れ、扉部が自動で閉鎖される仕組み (けり糸方式) とした (写真 1-33)。また、シカの出現業況や囲いわな内での動きを把握するため自動撮影カメラ 5 台を設置した。なお、誘引に関しては、同マンゲートは、大型仕切柵での捕獲扉も兼用しているため、12 月より仕切柵内にて継続的に給餌が行われている状況である。

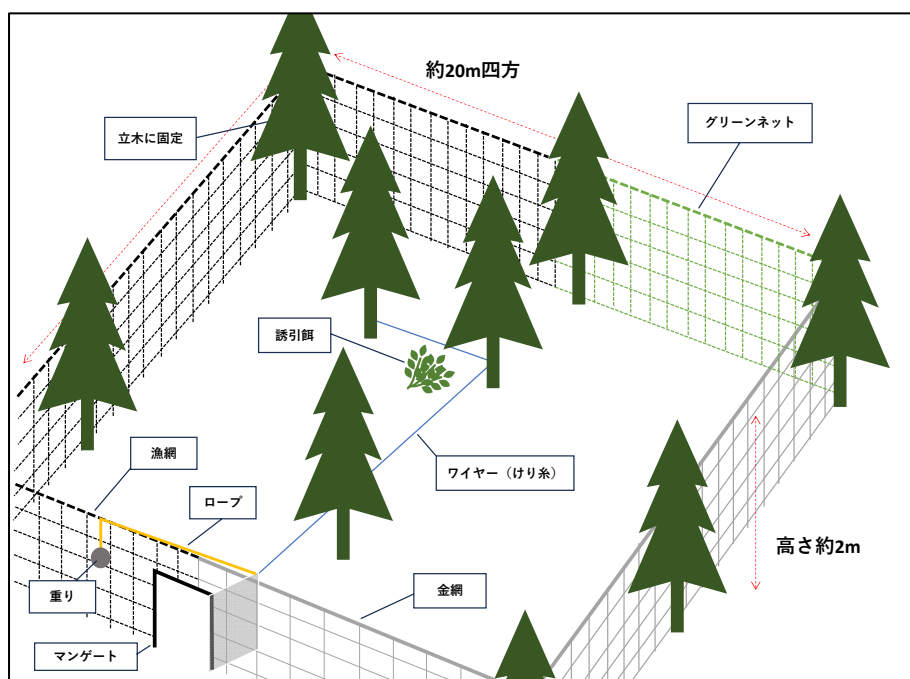


図 1-9. 簡易囲いわなの基本構造

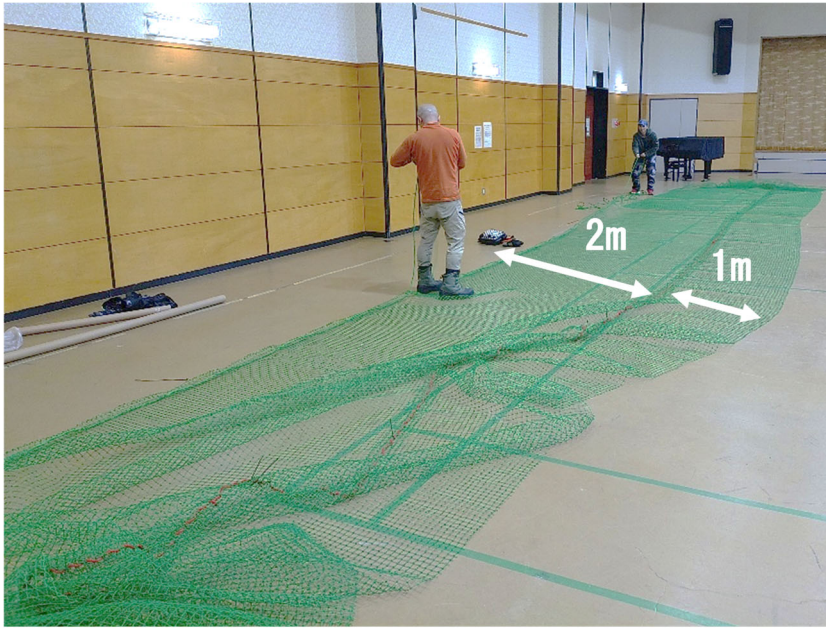


写真 1-31. 既成のグリーンネットを継いで作成した幅約 3m のネット



写真 1-32. 囲い部のグリーンネットの形状 (2月1日)



写真 1-33. マンゲート扉部に接続したけり糸末端のトリガー（赤丸部）（2月5日）

（2） 実施結果

作業の実施状況

簡易囲いわなの運用に係る作業状況について表 1-16 に整理した。囲いわなの設置作業は 1 月 24 日に開始し、その後、資材運搬などを経て 2 月 1 日に完成した。

表 1-16. 簡易囲いわなに関わる作業の実施状況

実施日	作業項目	備考
1 月 24 日	海側の 1 面にグリーンネット設置。 囲い内側に給餌	* 大型仕切柵捕獲作業に合わせ、事前に設置位置等は確認済み。
1 月 31 日	けり糸位置等の確認。ネット資材搬入。 囲い内側に給餌	
2 月 1 日	ネットの全面設置完了。一部分のネットを上げ通路を確保。	通路確保直後にオスジカ 2 頭が通過
2 月 4 日	通路として上げていたネットを下げ囲い状態とした。自動撮影カメラを簡易囲いわな内に 5 台追加。	
2 月 5 日	14:40:トリガーをセットし捕獲待機状態とした。囲い内側に給餌。	簡易囲いわな稼働
2 月 6 日	12:24:わな作動。2 頭捕獲。 14:00:銃による止め刺しを実施。利用施設に搬入。マンゲートと囲いネット（一部）は開放した。	捕獲(1回目):オス 4 尖 2 頭 →同日に止め刺し・搬出

実施日	作業項目	備考
2月10日	囲い内側に給餌。	
2月16日	囲い内側に給餌。	
2月18日	11:30:トリガーをセット。ネットを下ろし捕獲待機状態とした。囲い内に給餌。	簡易囲いわな稼働
2月19日	午前2-3時頃にわな作動。扉閉鎖。同日は荒天等のため捕獲作業はなし。	捕獲(2回目) →翌日に止め刺し・搬出
2月20日	囲い内に5頭確認。銃による止め刺しを実施。利活用施設に搬入。	メス0歳1頭、4尖オス2頭、3尖オス1頭、オス0歳1頭
2月21日	ネットや自動撮影カメラ等を回収。マンゲートを開放し撤収。	

簡易囲いわな資材の設置

簡易囲いわなを構築するにあたって、1辺は既存の仕切柵フェンス（金網）を活用し、その他3辺はグリーンネットを囲い部の壁面として設置した（写真1-34）。設置作業は2～4名で行い、グリーンネットは立木にロープで固定し、囲い部の高さを2m程度確保した（写真1-35）。また、ネット下からのくぐり抜けを防止するため、囲い部の内側に1mのスカート部を作り、雪や倒木を重しとして載せる対策を施した。囲いわなの閉鎖扉には既存の2段式扉のマンゲートを使用した。



写真1-34. 使用したグリーンネット



写真 1-35. 海側の 1 面に設置したグリーンネット (1 月 24 日)

シカの誘引状況

簡易囲いわなの運用期間中、シカを囲いわな内を中心に誘引するため乾草ブロックの散布による給餌を計 7 回 (合計約 96kg) の給餌を実施した。シカの誘引状況としては、2 月 1 日にはグリーンネット設置が完了し、その後の馴化期間として通路確保するためにネットをたくし上げた直後にシカが通過するなど、大型仕切柵捕獲の給餌も兼ねて長期間餌付けを行った効果として餌付している様子が確認された (写真 1-36)。



写真 1-36. 作業中にも関わらず囲い内に入り餌場へ向かうシカの様子 (2 月 1 日)

捕獲結果

簡易囲いわなの設置完了後、わなが 2 回稼働し、計 7 頭のシカを捕獲した（表 1-17）。それぞれの経過は下記の通りである（注 1）。

注 1：本業務において、「大型仕切柵による囲いわな」と「簡易囲いわな」両方を同時に捕獲可能状態とすることはせず、それぞれ独立した形で捕獲作業を実施した。

表 1-17. 簡易囲いわなでの捕獲結果一覧

捕獲日	メス成獣	オス成獣	メス0歳	オス0歳	計	止め刺し・搬出日
2月6日	0	2	0	0	2	2/6
2月19日	0	3	1	1	5	2/20
計	0	5	1	1	7	

※. 捕獲日は、捕獲扉等を閉鎖しシカを簡易囲いわな内に閉じ込めた状態にした日とした。



■簡易囲いわな捕獲 1 回目（2 月 5 日～6 日）

【概要】


2 月 5 日にトリガーをセット、翌 6 日正午頃にわなが作動し、オス成獣 2 頭が捕獲された。同日中に、銃器による止め刺しを行い、シカ有効活用施設へと搬入した。（表 1-18）。

表 1-18. 簡易囲いわなでの 1 回目の捕獲の様子

日付	時間	内容
2 月 5 日	14:40	トリガーセット。簡易囲いわな稼働。
	20:30	わな稼働後、最初のシカ出現。その後、同写真含め、わな作動まで 21 枚のシカ撮影あり(シカ写り込み 22 頭)

日付	時間	内容
2月6日	11:24	<p>わな作動前の最後の写り込み。</p>  <p>Hyke #01 M 2026/02/06 11:24:23 ● 000°C</p>
2月6日	11:30	<p>けり糸に触れた直後の映像。わな稼働。</p>  <p>2026/02/06 11:30:21</p>
	12:24	<p>わな作動後の最初の写真。扉の閉鎖を確認。</p>  <p>Hyke #01 M 2026/02/06 12:24:35 ● -01°C</p>



日付	時間	内容
		<p>囲い内のシカの様子。随時送られてくる映像からも特に慌てた様子は見られず。</p>  <p>Two deer are standing in a snowy forest enclosure. The ground is covered in snow, and the trees are bare. The deer are facing each other. The image is a screenshot from a mobile device, showing a status bar at the bottom with the text 'HUK 1 M 2026/02/06 13:16:31 002°C'.</p>
2月6日	14:30	<p>止め刺しの実施。囲い内に2頭のシカを確認。50mほど離れた位置からグリーンネット越しにライフル銃にて狙撃。 →ややネットを通過する際に弾道に乱れあり。</p>  <p>A person wearing an orange jacket and a backpack is on skis in a snowy forest. They are holding a rifle. The forest is covered in snow, and the trees are bare. The sky is blue with some clouds.</p> <p>人の接近に気が付き囲い内を動き回る2頭のシカの様子。 →グリーンネットや既存フェンスに体当たりをするも逃げられることはなし。</p>  <p>Two deer are in a snowy forest enclosure. One deer is near a green net. The ground is covered in snow, and the trees are bare. The image is a screenshot from a mobile device, showing a status bar at the bottom with the text 'HykeCam #01 G 2026/02/06 14:18:50 004°C'.</p>

日付	時間	内容
	14:40	<p>2頭のシカの捕殺を確認。スノーモビルにて回収。シカ利活用施設に搬入。 →捕獲完了。ネット等に破損はなし。</p> 

■簡易囲いわな捕獲 2 回目 (2 月 18 日～20 日)

2 月 18 日にトリガーをセット、翌 19 日の午前 2～3 時頃にわなが作動し、5 頭 (メス 0 歳 1 頭、オス成獣 3 頭、オス 0 歳 1 頭) のシカが捕獲された。同日は荒天等のため捕獲作業は見送り、翌 20 日に銃器による止め刺しを行い、シカ有効活用施設へと搬入した (表 1-19)。

表 1-19. 簡易囲いわなでの 2 回目の捕獲の様子

日付	時間	内容
2 月 18 日	11:40	トリガーセット。簡易囲いわな稼働。
	16:14	わな稼働後、最初のシカ出現。その後、同写真含め、わな作動まで 20 枚のシカ撮影あり(シカ写り込み 31 頭)。 
2 月 19 日	1:50	わな作動前の最後の写り込み。 

日付	時間	内容
2月19日	2:58	<p data-bbox="544 304 1051 338">わな作動後の最初の写真。扉の閉鎖を確認。</p>  <p data-bbox="544 824 1347 891">罠内のシカの様子。随時送られてくる映像からも特に慌てた様子は見られず。</p>  <p data-bbox="544 1377 1347 1444">扉閉鎖から7時間後の様子。ここまでも特に走り回るなど慌てた様子はなし。</p> <p data-bbox="544 1451 1051 1485">→同日は荒天のため捕獲作業は延期とした。</p> 

日付	時間	内容
2月20日	9:31	<p data-bbox="544 304 1348 405">扉閉鎖から30時間後の様子。ここまでも特に走り回るなど慌てた様子はなし。ただし、この直後に人の接近し始めたため、立ち上がり警戒しだすことに。</p>  <p data-bbox="544 864 1018 898">人の接近に気が付き、警戒し始めた様子。</p>  <p data-bbox="544 1357 1337 1424">その後、囲い内を走り回り、ネットに体当たりをして逃走を試みるも逃げられることはなし。ネットの下をまкруられて逃げられることもなかった。</p> 

日付	時間	内容
2月20日	9:42	<p data-bbox="544 304 911 333">ネットに体当たりをしている様子。</p>  <p data-bbox="544 795 1340 996">止め刺しを実施。今回は金網越しからライフル銃にて狙撃。 →極めて接近するためシカは常に走りまわっている状態。 →かつ複数頭がいるため、至近距離にも関わらず5頭の止め刺しには10分程度の時間を要した。 →今回は逃走されることはなかったが、時間を要するほど逃走のリスクはあり。</p>  <p data-bbox="544 1460 1340 1525">5頭のシカの捕殺を確認。スノーモビルにて回収。シカ利活用施設に搬入。→捕獲完了。ネット等に破損はなし。</p> 

(3) まとめ・考察

本業務において簡易囲いわなの設置からシカの捕獲までの一連の作業を試行したことで、新たな捕獲手法としての確立に向けた有用な知見を得ることができた。今回の 2 回の捕獲においては、複数頭のシカが逃走を試みるも致命的な不備は見られなかったことから、特に積雪期に関してはグリーンネットによる囲い部は、実用レベルに達したと評価できるものと思われる。今後の課題としては、非積雪期における設置方法の検討の他、銃器を用いた止め刺しに関して、囲い越しに狙撃するだけでなく、例えばハイシートと組み合わせ高さを確保するなど、より確実な止め刺し手法を開発することが求められる。

簡易囲いわなは、アクセス手段や作業のリソース面での制約等により、展開可能な捕獲手法が限られている環境下において、低コストかつ効率的にシカの捕獲を行うための一助となり得る。今後も捕獲試行を継続し手法を確立することで、現在の知床半島におけるシカ管理の重点課題となっている知床岬地区におけるシカ捕獲の今後の展開を検討する上で大きな一助になるものと考えている。

2. ルサー相泊地区におけるエゾシカの捕獲

ルサー相泊地区は知床半島東側の羅臼町に位置し、ルサ川河口からアイドマリ川河口間の距離約 8 km、幅約 2～4 km のエリアである。相泊を起点とする道道 87 号知床公園羅臼線（以下、道道 87 号線）が唯一の道路として知床半島基部方向へと海岸線を走っており、内陸へ向かう道路や林道はない。海岸から約 2～4km 内陸側には斜里町との町界が走っており、町界は半島東西の河川の分水嶺となっている。本地区は知床半島におけるシカの主要な越冬地のひとつとなっており、今冬は 2009 年度のシカ捕獲事業開始以来、17 シーズン目となる。本地区では、過去 16 シーズン（2009～2024 年度）に流し猟式 SS や囲いわな、箱わな等の様々な捕獲手法により、計 1,108 頭のシカ（うちメス成獣 531 頭）が捕獲された。

「第 4 期知床半島エゾシカ管理計画」において、当面の管理目標と示されている航空カウント調査によるシカ発見密度 5 頭/km²以下に対し、2025 年 2～3 月に実施された航空カウント調査では、本地区（モニタリングユニット R13 ルサ川流域～クズレハマ川）において 183 頭（7.41 頭/km²）のシカが発見され（令和 5 年度（繰越）知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書）、2024 シカ年度に達成した管理目標値を再び超える結果となった。

本業務では昨冬に引き続き、くくりわなによるシカ捕獲を実施した（図 2-1）。なお、過去に実施していた流し猟式 SS 並びに 2021 シカ年度に試行した日没時銃猟は今年度、未実施である。

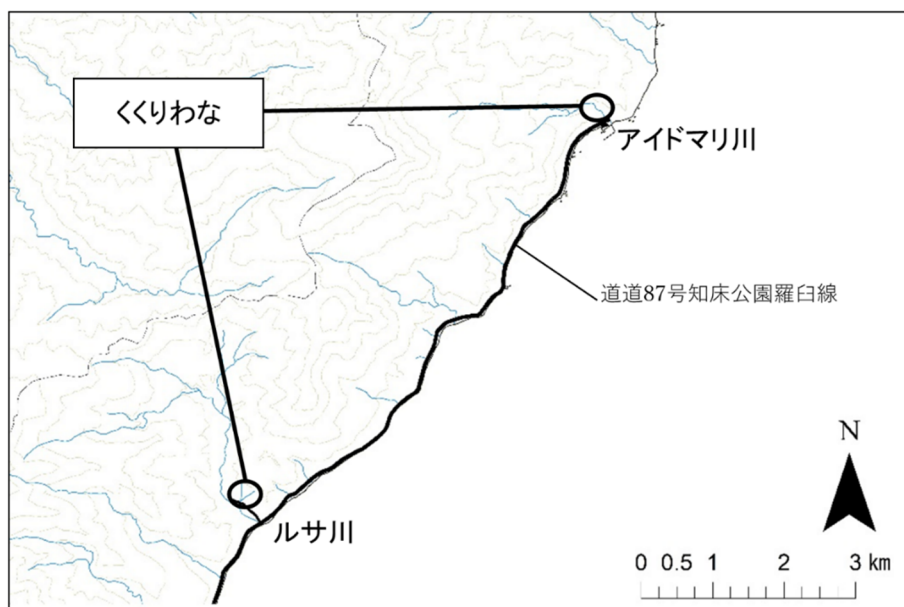


図 2-1. 羅臼町ルサー相泊地区におけるくくりわなの設置位置

2-1. くくりわなによる捕獲

ルサー相泊地区におけるくくりわなを用いたシカの捕獲は、2016 シカ年度から実施されている。初年度はルサ川沿いで試行的に実施され、計 11 頭のシカを捕獲し、本地区におけるくくりわなの有効性が確認された（公益財団法人知床財団, 2017b）。

2 シーズン目（2017 シカ年度）からは、同地区でくくりわなによる捕獲が本格的に開始され、2016～2024 シカ年度の 8 シーズンに計 215 頭のシカ（うちメス成獣 81 頭）がくくりわなで捕獲された（公益財団法人知床財団, 2024b）。本業務では昨年度に引き続き、ルサー相泊地区において、くくりわなを用いたシカ捕獲を実施した。

（1） 実施方法

使用したくくりわなの概要

本業務では、有限会社栄工業製の足くくりわな（栄ヒルズ F type : 以下、筒式）を使用した（写真 2-1）。筒式は、踏み板となる筒部分と、ねじりバネが組み込まれた足を括るワイヤー部分の 2 つに分かれている。対象動物が地面に置かれた踏み板を踏み抜くことにより、ワイヤーがバネの力で縮まり、動物の足がくくられる仕組みとなっている。また、ワイヤーの末端を立木等に固定するため、足をくくられた動物は逃げられない仕組みになっている。筒式くくりわなの踏み板は、内筒と外筒から構成されており、特に外筒は 16cm 程度の高さがあるため、使用の際は、積雪の深さなど現場の状況に応じて雪や地面を掘り、くくりわなが最適な位置に納まるよう調整し設置した。



写真 2-1. 本業務で使用した筒式くくりわな

くくりわなの設置場所及び設置期間

本業務では、30基のくくりわなを用いてシカの捕獲を実施した。わなの設置場所はシカの出現状況や見回り作業の効率に加え、河川沿いでは希少猛禽類の生息の可能性にも配慮して選定した。ルサ川流域では、これまでの捕獲実績を踏まえ、ルサ川下流域（以下、「ルサ下流」とする）を主たる設置場所とした。アイドマリ川流域では、希少猛禽類の生息可能性に配慮し、川から左岸側に200mほど離れた段丘の下部（以下、「相泊左岸」とする）を設置場所とした。（図2-2,2-3）。

各設置場所における設置期間を表2-1に示した。ルサ下流、相泊左岸の設置期間は共に、1月5日から2月4日までの30日間のうち、中断期間を除く計17日間であった。中断期間は1月7日から17日、1月29日から30日である。1月7日相泊にてヒグマの足跡の痕跡を確認したため、環境省の担当官と協議した結果同日1月7日13時の見回り後から1月17日までわなを停止し、ヒグマの目撃、痕跡が確認されなければ18日からの再開とした。また1月30日が荒天予報であったため、1月29日見回り後にわなを停止し、31日に再開した。設置したくくりわなは捕獲期間の終了後に現地からすべて撤収した。なお、捕獲の開始および終了の時期については、環境省の担当官と協議して決定した。

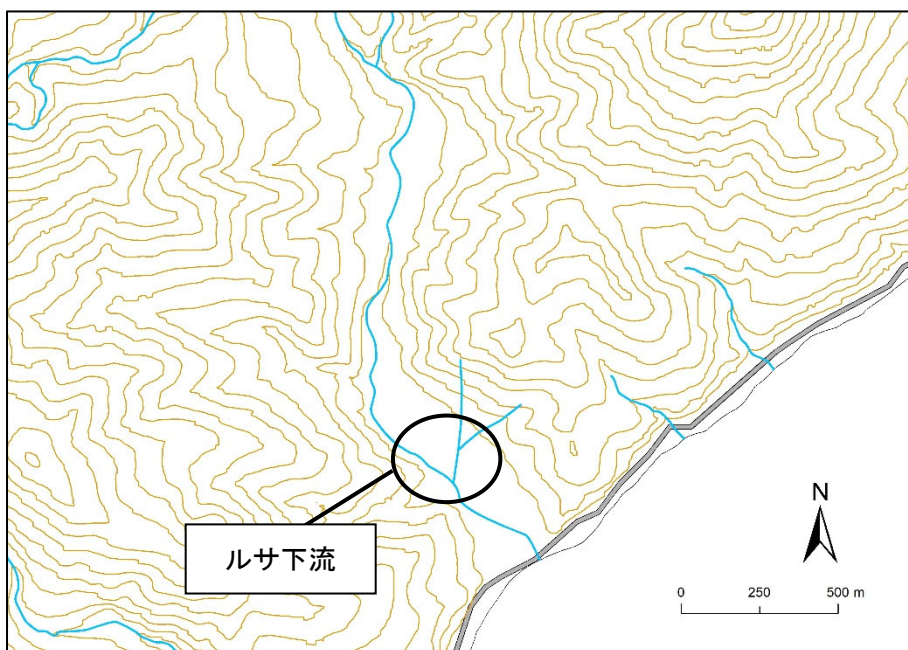


図2-2. ルサ川流域におけるくくりわなの設置場所

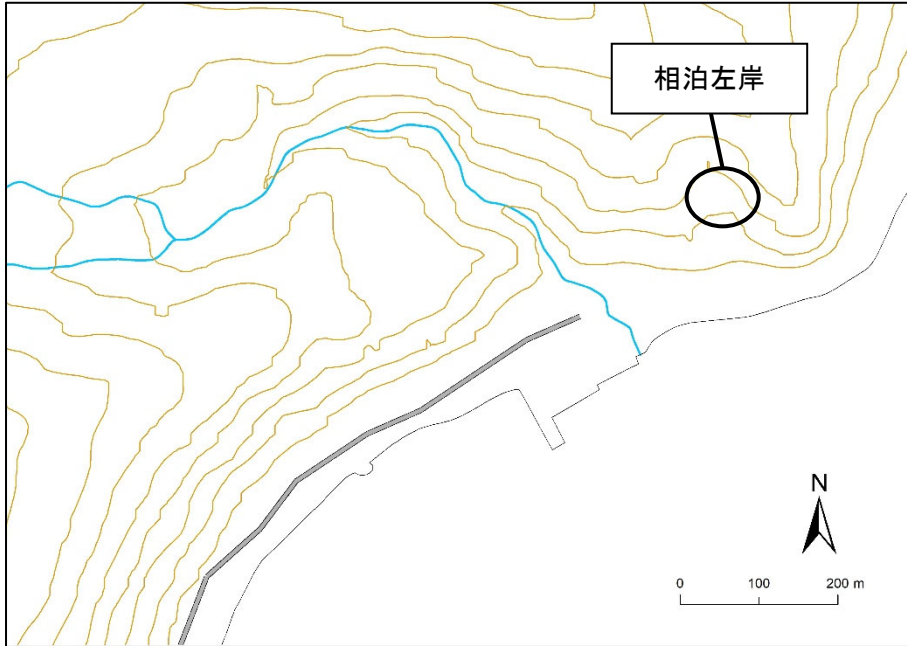


図 2-3. 相泊におけるくくりわなの設置場所

表 2-1. くくりわなの設置状況

月日	わな数			備考	
	ルサ(下流)	相泊左岸	合計		
1月5日	月	-	-	0	ルサ、相泊わな設置開始。※誘引は12月14日より開始。
1月6日	火	-	-	0	4尖オス3頭捕獲。
1月7日	水	-	-	0	相泊にてヒグマの足跡が発見されたためわな停止。
1月8日	木	-	-	0	
1月9日	金	-	-	0	
1月10日	土	-	-	0	
1月11日	日	-	-	0	
1月12日	月	-	-	0	
1月13日	火	-	-	0	
1月14日	水	-	-	0	
1月15日	木	-	-	0	
1月16日	金	-	-	0	
1月17日	土	-	-	0	
1月18日	日	-	-	0	ヒグマの痕跡が発見されなかったため、わな再開。
1月19日	月	-	-	0	4尖オス1頭、1尖オス1頭捕獲。
1月20日	火	-	-	0	荒天のため見回り中止。
1月21日	水	-	-	0	4尖オス1頭捕獲。
1月22日	木	-	-	0	4尖オス1頭、メス幼獣1頭捕獲。
1月23日	金	-	-	0	オス幼獣1頭捕獲。
1月24日	土	-	-	0	メス成獣1頭、メス幼獣1頭捕獲。
1月25日	日	-	-	0	4尖オス1頭、メス成獣1頭捕獲。
1月26日	月	-	-	0	メス幼獣1頭捕獲
1月27日	火	-	-	0	1尖オス1頭捕獲。
1月28日	水	-	-	0	
1月29日	木	-	-	0	4尖オス1頭、メス幼獣捕獲1頭、また翌日荒天予報のため、わな停止。
1月30日	金	-	-	0	
1月31日	土	-	-	0	わな再開。
2月1日	日	-	-	0	3尖オス1頭、メス成獣1頭捕獲。
2月2日	月	-	-	0	1尖オス1頭捕獲。
2月3日	火	-	-	0	4尖オス1頭、メス幼獣1頭捕獲。
2月4日	水	-	-	0	メス成獣1頭捕獲、およびわな撤去。
トラップナイト数		0	0	0	

※わな数：各日(夜)に設置されているわな数を、「-」はわなが設置されていないことを示す。

くくりわなの見回り・給餌作業

くくりわなの見回り作業は1日1回を基本とした。また、主たるわなが画角に入るよう自動撮影カメラを適所に設置し、メールで受信した画像をもとに捕獲の有無を随時確認するとともに、シカの誘引状況等の把握を行った（写真 2-2）。

見回り作業時に、くくりわなの動作不良や空はじき（わなは作動したが、シカは捕獲されていない状態）が確認された場合は、ワイヤーおよびバネの破損の有無を確認した後、くくりわなを再設置した（写真 2-3）。

見回りや、わなの移設時には、シカをわな周辺に誘引・滞留させるための餌として乾草ブロックを周辺に撒いた（写真 2-4）。給餌作業は誘引餌の残り具合や積雪の状況に応じて適宜調整し、業務期間中にルサ下流にて 26 回、相泊左岸にて 26 回の計 52 回実施し、計 21 個（約 630kg）の乾草ブロックを使用した。

シカの捕獲頻度が低下し、シカの新しい痕跡がわな周辺で確認されない場合や誘引餌を採食した痕跡がない等、シカの出現状況に変化が生じた場合には、くくりわなをシカの痕跡が多い場所へ適宜移設した。なお、ルサ下流での捕獲作業においてはスノーモビルを使用し、見回りや捕獲個体の搬出等を行った。



写真 2-2. 送信される画像によって捕獲の有無が確認できる写真の一例（12月18日）



写真 2-3. くくりわなの点検作業 (1月28日)



写真 2-4. 乾草ブロックを用いた餌撒き作業の様子 (12月24日)

捕獲個体の止め刺し・搬出

シカが捕獲されていた場合は、シカの首にロープをかけて拘束した状態で、電気止めさし機を用いて止め刺しを実施した（写真 2-5～2-8）。その後、大型ソリとロープ、スノーモバイル等を用いて捕獲個体を車両のある道路まで搬出した（写真 2-9）。

捕獲個体の止め刺し後は、シカが捕獲されていたくくりわなを再設置した。作業中は予備のわなを持参し、破損が認められたくくりわなについては交換を行った。捕獲個体は原則としてシカ利活用施設に無償で引き渡したが、シカ利活用施設が休日等で受け入れできない場合は、処分費用を支払ってレンタル事業者に引き渡した。



写真 2-5. 止め刺しに用いた電殺機



写真 2-6. 大雪時にわなにかかっていたシカの様子 (1 月 21 日)



写真 2-7. 電殺機でシカの止め刺しを実施している様子 (1 月 29 日)



写真 2-8. くくりわなにかかったシカの様子 (1月23日)



写真 2-9. 捕獲したシカの搬出時の様子 (1月29日)

(2) 実施結果

捕獲結果

ルサー相泊地区においては、計 23 頭のシカを捕獲した。捕獲個体の内訳はメス成獣が 4 頭 (17.4%)、オス成獣が 13 頭 (56.5%)、メス 0 歳が 5 頭 (21.7%)、オス 0 歳が 1 頭 (4.3%)、オス成獣が最も多かった (表 2-2)。

くくりわなによる捕獲の状況および作業内容を表 2-3 に示した。ルサ下流での捕獲については、1 月 5 日に捕獲を開始したが、1 月 7 日に相泊にてヒグマの痕跡が発見されたため 1 月 7 日から 17 日にかけてわなを停止していた。そのため、18 日の捕獲再開後の 21 日が最初の捕獲となった。その後、1 月 30 日が荒天予報のため 29 日の捕獲作業終了後にわなを停止し、31 日に捕獲を再開し 2 月 4 日に捕獲作業を終了した。21 日の捕獲後、ほぼ連日でシカの捕獲があった。1 月 30 日の荒天後一時シカの動きが鈍くカメラに映らなかったが、徐々に撮影頭数も増えていき 2 月 3 日、4 日と捕獲が続きわなを終了することとなった。結果としてルサ下流でのシカの捕獲数はメス成獣 2 頭、オス成獣 5 頭、メス 0 歳 5 頭、オス 0 歳 1 頭、計 13 頭であった。

次に相泊左岸での捕獲については、1 月 5 日に捕獲を開始し、翌日 1 月 6 日に最初のシカが捕獲されたが、ルサ下流と同様に 1 月 7 日に相泊にてヒグマの痕跡が発見されたため 1 月 7 日から 17 日にかけてわなを停止し、18 日からわなを再開した。その後、1 月 30 日が荒天予報のため 29 日の捕獲作業終了後にわなを停止し、31 日に捕獲を再開し 2 月 4 日に捕獲作業を終了した。1 月 6 日に 4 尖のオス 3 頭を捕獲し、わなを再開した 18 日以降は、オス成獣の捕獲が最も多く 2 月 2 日の捕獲を最後に 4 日にわなを終了することとなった。相泊左岸でのシカの捕獲数はメス成獣 2 頭、オス成獣 8 頭、計 10 頭であった。

くくりわなの捕獲効率について表 2-4 に示した。捕獲効率はルサ下流で 0.05 頭/TN、相泊左岸で 0.04 頭/TN であった。

くくりわなでの空捕獲は、業務期間中に 26 回確認された。なお、全ての空捕獲の場において、わな周辺で新しいシカの痕跡を確認した。

表 2-2. ルサー相泊地区のくくりわなで捕獲したシカの頭数および内訳

地区	メス成獣	オス成獣	メス0歳	オス0歳	性別不明0歳	計
ルサ(下流)	2	5	5	1	0	13
相泊左岸	2	8	0	0	0	10
合計	4	13	5	1	0	23
割合 (%)	17.4	56.5	21.7	4.3	0.0	100

表 2-3. くくりわなによる捕獲状況と作業内容

月日	わな設置基数		捕獲数		見回り	搬出	誘引	停止
	ルサ下流	相泊左岸	ルサ下流	相泊左岸				
12月14日	-	-	-	-			●	
12月15日	-	-	-	-				
12月16日	-	-	-	-				
12月17日	-	-	-	-				
12月18日	-	-	-	-			●	
12月19日	-	-	-	-				
12月20日	-	-	-	-				
12月21日	-	-	-	-			●	
12月22日	-	-	-	-				
12月23日	-	-	-	-				
12月24日	-	-	-	-			●	
12月25日	-	-	-	-				
12月26日	-	-	-	-				
12月27日	-	-	-	-				
12月28日	-	-	-	-				
12月29日	-	-	-	-				
12月30日	-	-	-	-				
12月31日	-	-	-	-				
1月1日	-	-	-	-				
1月2日	-	-	-	-				
1月3日	-	-	-	-				
1月4日	-	-	-	-				
1月5日	15	15	-	-			●	
1月6日	15	15	-	3	●	●	●	●
1月7日	-	-	-	-	●		●	●
1月8日	-	-	-	-				
1月9日	-	-	-	-			●	
1月10日	-	-	-	-				
1月11日	-	-	-	-			●	
1月12日	-	-	-	-				
1月13日	-	-	-	-			●	
1月14日	-	-	-	-				
1月15日	-	-	-	-			●	
1月16日	-	-	-	-				
1月17日	-	-	-	-			●	
1月18日	15	15	-	-			●	
1月19日	15	15	-	2	●	●	●	
1月20日	15	15	-	-				
1月21日	15	15	1	-	●	●	●	
1月22日	15	15	2	-	●	●	●	
1月23日	15	15	1	-	●	●	●	
1月24日	15	15	1	1	●	●	●	
1月25日	15	15	2	-	●	●	●	
1月26日	15	15	1	-	●	●	●	
1月27日	15	15	1	-	●	●	●	
1月28日	15	15	-	-	●		●	
1月29日	-	-	1	1	●			●
1月30日	-	-	-	-				
1月31日	15	15	-	-			●	
2月1日	15	15	-	2	●	●	●	
2月2日	15	15	-	1	●	●	●	
2月3日	13	15	2	-	●	●	●	
2月4日	-	-	1	-	●	●		●
合計	253	255	13	10	16	13	52	3

※わな数：各日(夜)に設置されているわな数を、「-」はわなが設置されていないことを示す。

※誘引回数は、ルサ、相泊を各1回とカウントしている。

※誘引回数内訳：ルサ下流にて26回、相泊左岸にて26回の計52回。

表 2-4. ルサー相泊地区におけるくくりわなの場所別の捕獲効率

地区	トラップナイト数	捕獲頭数	捕獲効率 (頭/トラップナイト)	うちメス成獣 捕獲頭数	メス成獣 捕獲効率 (頭/トラップナイト)
ルサ下流	253	13	0.05	2	0.01
相泊左岸	255	10	0.04	2	0.01
ルサー相泊計	508	23	0.05	4	0.01

自動撮影カメラによるシカの生息状況および誘引状況の把握

捕獲を実施したルサ下流および相泊左岸では、画像メール送信機能付きのハイカム LT4G（株式会社ハイカム製）を用いてシカの捕獲の有無、生息状況並びに誘引状況の把握を行った（写真 2-10）。各所に出現した日ごとのシカの最多頭数は表 2-5 の通りである。

ルサ下流では、撮影を開始した 12 月 16 日以降シカの映り込みは多かったが、年内最後の餌撒きを実施した 12 月 24 日以降、1 月 7 日まで徐々にカメラに映る頭数が減っていった。1 月 5 日に捕獲、誘引を開始すると 7 日からシカの映り込みが多くなった。荒天であった 1 月 20 日と 1 月 30 日もシカの映り込みがあり、シカが出現しない日が少なかった。12 月 16 日カメラ設置開始から、2 月 4 日のわな捕獲終了までの間 51 日間の内シカが映っていた日数は 45 日間だった。そのうち 12 月 21 日は期間最多となる 6 頭が撮影され（写真 2-11）。メス成獣の最多頭数は、1 月 9 日に記録した 4 頭であった。

相泊左岸では、撮影を開始した翌日の 12 月 17 日からシカが撮影され、その後も連続してシカは出現した。ルサ下流と同じく、年内最後の餌撒きを実施した 12 月 24 日以降、1 月 4 日まで徐々にカメラに映る頭数が減っていった。1 月 5 日に捕獲、誘引を開始するとすぐシカの映り込みが多くなった。荒天であった 1 月 20 日と 1 月 30 日については 20 日の映り込みは無かったが、30 日には全体を通して 3 頭の映り込みがありシカが映っている日が多かった。12 月 16 日カメラ設置開始から、2 月 4 日のわな捕獲終了までの間 51 日間の内シカが映っていた日数は 39 日間だった。そのうち 12 月 20 日、1 月 5 日、7 日、9 日に、期間最多となる 5 頭が撮影された（写真 2-12）。メス成獣の最多頭数は、1 月 9 日に記録した 4 頭であった。



写真 2-10. ルサ下流に設置した自動撮影カメラ

表 2-5. 自動撮影カメラで撮影されたシカの日別最多頭数

日時	曜日	ルサ下流			相泊		
		最多頭数	メス最多頭数	備考	最多頭数	メス最多頭数	備考
12月16日	火	1	0	カメラ設置、及び餌巻き開始。	0	0	カメラ設置、及び餌巻き開始。
12月17日	水	1	1		2	2	
12月18日	木	5	5		1	1	
12月19日	金	3	3		4	2	
12月20日	土	3	2		5	3	
12月21日	日	6	3		3	1	
12月22日	月	1	1		1	0	
12月23日	火	3	2		1	0	
12月24日	水	4	3	年内最後の誘引	0	0	年内最後の誘引
12月25日	木	2	1		4	2	
12月26日	金	1	0		2	1	
12月27日	土	1	1		1	1	
12月28日	日	0	0		1	0	
12月29日	月	3	2		1	0	
12月30日	火	3	2		3	3	
12月31日	水	1	1		0	0	
1月1日	木	1	0		1	1	
1月2日	金	1	0		0	0	
1月3日	土	0	0		0	0	
1月4日	日	0	0		0	0	
1月5日	月	0	0	捕獲、誘引開始。	5	1	捕獲、誘引開始。
1月6日	火	0	0		1	0	4 尖オス 3 頭捕獲。
1月7日	水	3	3	罨停止。	5	1	罨停止。
1月8日	木	6	6		3	0	
1月9日	金	5	3		5	4	
1月10日	土	2	1		3	3	
1月11日	日	2	2		1	0	
1月12日	月	2	2		0	0	
1月13日	火	4	4		2	0	
1月14日	水	1	1		1	0	
1月15日	木	3	3		0	0	
1月16日	金	4	4		2	1	
1月17日	土	3	2		3	2	
1月18日	日	3	2	罨再稼働。	3	0	罨再稼働。
1月19日	月	3	3		2	1	4 尖オス、1 尖オス捕獲。
1月20日	火	3	2	荒天のため見回り中止。	0	0	荒天のため見回り中止。
1月21日	水	3	2	4 尖オス捕獲。	0	0	
1月22日	木	1	1	4 尖オス、メス幼獣捕獲。	1	0	
1月23日	金	2	1	オス幼獣捕獲。	4	2	
1月24日	土	3	3	メス幼獣捕獲。	2	2	メス成獣捕獲
1月25日	日	2	2	4 尖オス、メス成獣捕獲。	1	0	
1月26日	月	3	3	メス幼獣捕獲。	0	0	
1月27日	火	4	4	1 尖オス捕獲。	1	1	
1月28日	水	1	1		1	1	
1月29日	木	0	0	メス幼獣捕獲。荒天のため罨停止。	2	1	4 尖オス捕獲。荒天のため罨停止。
1月30日	金	1	1		3	1	
1月31日	土	1	1	罨再稼働。	4	1	罨再稼働。
2月1日	日	2	1		3	1	3 尖オス、メス成獣捕獲。
2月2日	月	4	3		2	1	1 尖オス捕獲。
2月3日	火	6	5	4 尖オス、メス幼獣捕獲。	2	0	
2月4日	水	1	1	メス成獣捕獲、捕獲終了。	0	0	捕獲終了。
シカ撮影日数		45			39		
(のべ撮影日数)		51			51		

※ 「最多頭数」は雌雄全てを含んだ群れ単位の最多頭数。「メス最大頭数」は群れ単位ではなくメスのみを抽出した場合の最多頭数。

※ 青色セルはシカが確認された日を示す。赤字は地区ごとの最多確認数を示す。

※ シカの捕獲記録については、集計に用いた自動撮影カメラの撮影範囲外の捕獲も含む。



写真 2-11. ルサ下流にて最多頭数を確認した時の状況（12月21日）



写真 2-12. 相泊左岸にて最多頭数を確認した時の状況（12月20日）

(3) まとめ・考察

本業務では、ルサー相泊地区において、1月5日から2月4日までの期間中に、30基のくくりわなを稼働させて計23頭（内メス成獣4頭）のシカを捕獲した。本地区全体のTN数は508TN、捕獲効率は0.05頭/TNであった。本地区におけるくくりわなを用いた捕獲は8シーズン目となり、これまでの捕獲総数は累計238頭（うちメス成獣85頭）となった（表2-6）。

12月14日よりルサ下流、相泊左岸にて給餌を開始した。年末年始を含め22日間の誘引および生息状況確認の期間を経て1月5日より捕獲を開始したが、1月7日に相泊にてヒグマの足跡を発見したため、環境省の担当官と協議した結果1月7日の見回り後から1月17日までわなを停止し、18日から捕獲を再開し2月4日に捕獲を終了した。ルサ下流は、メス成獣2頭、オス成獣5頭、メス0歳5頭、0歳オス1頭の計13頭の捕獲となった。今年度は、12月14日からルサ下流内のルサ右岸に餌による誘引を開始、及び1月5日の捕獲開始しくくりわなを6基設置した。ルサ右岸での捕獲は、メス成獣2頭、オス成獣1頭、メス0歳4頭の計7頭でメス成獣は右岸での捕獲のみだった。ルサ右岸に設置されたカメラには、メス成獣の群れが餌に常時誘引されていた。1月30日の暴風雪の後は、単独のメス成獣だけが写されていたが、警戒心からかわなが設置された付近の餌の近くには近づかなかった。その後、2月3日の夜半からメス成獣を中心とした群れが再度出没し、その内のメス成獣1頭を捕獲するに至った。ルサ右岸のカメラに写っていたシカ成獣の群れを効率よく捕獲できていなかったため、ルサ右岸での捕獲はメス成獣2頭となった。広葉樹林の林冠の末端にくくりわなを6基しかけ、餌を撒いたがわなをかけた範囲が狭く、1頭が捕獲されるとほかの群れが来ることはなかった。捕獲された親か子の連れが近くに居座ることはあったが、それ以外は別のシカの群れが誘引されることは無かった。そのため、山頂付近に滞留していると思しきシカを誘引することができたが、一度に2頭以上の捕獲が無かった。今後は林冠の末端の狭い範囲だけではなく、広い範囲にわなをかけ、誘引をすることができれば捕獲を伸ばすことができる可能性があると思われる。

表 2-6. 過年度および本年度におけるくくりわなによる捕獲頭数と捕獲効率（頭/TN）

年度	トラップナイト数	捕獲頭数(※1)	捕獲効率(※2) (頭/トラップナイト)
2016	549	11(6)	0.02(0.011)
2017	1258	44(22)	0.03(0.017)
2018	1056	32(7)	0.03(0.007)
2019	963	21(8)	0.02(0.008)
2020	1285	20(6)	0.02(0.005)
2021	1065	18(5)	0.02(0.005)
2022	905	33(16)	0.04(0.017)
2023	632	17(5)	0.03(0.008)
2024	540	19(6)	0.04(0.011)
2025	508	23(4)	0.05(0.008)

※1 捕獲頭数の括弧内の数値は捕獲されたメス成獣の頭数を示す。

※2 捕獲効率の括弧内の数値はメス成獣の捕獲効率を示す。

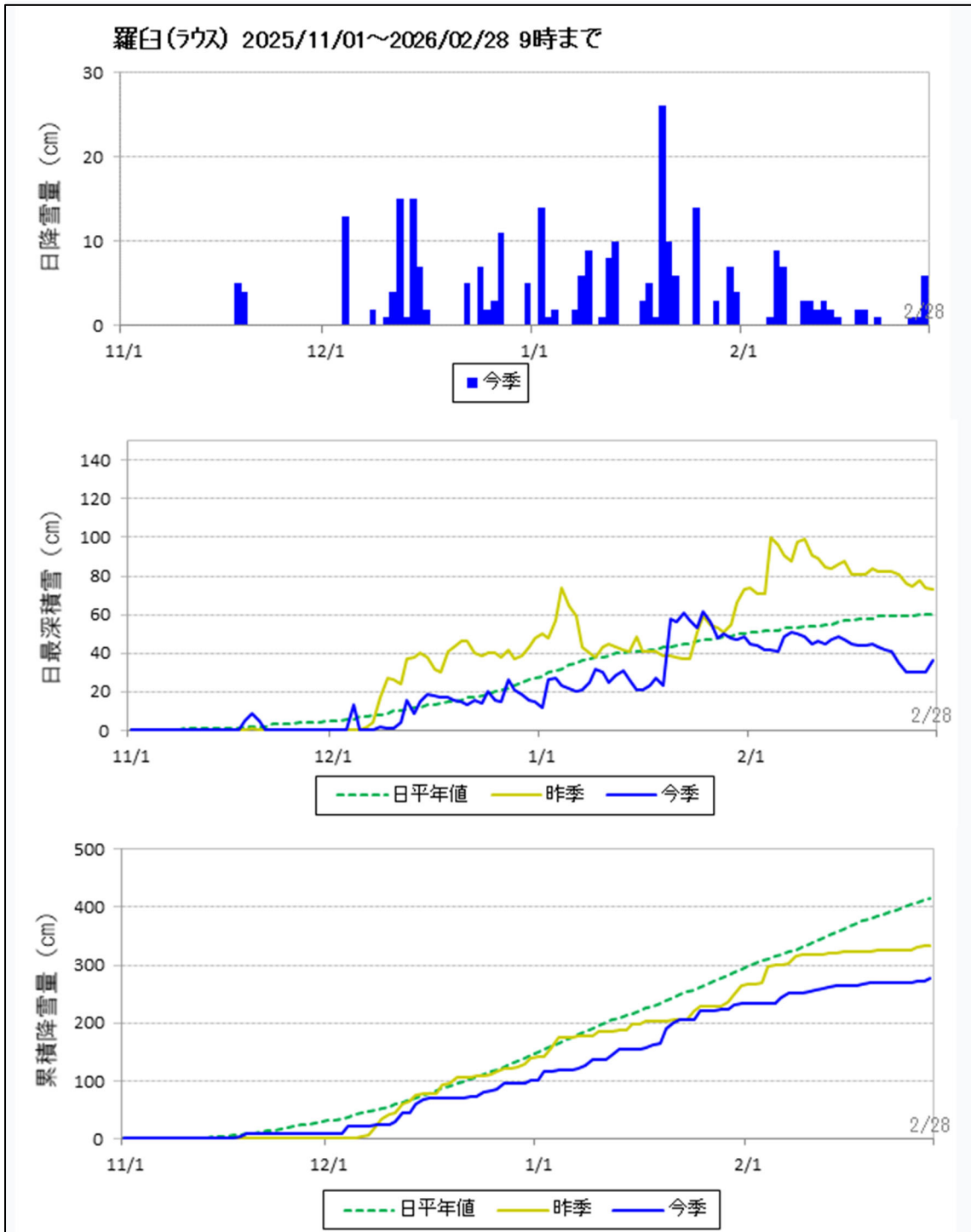


図 2-4. 羅臼の降雪量や積雪の深さの推移

(参考：気象庁札幌管区気象台 HP, 「北海道の積雪状況推移グラフ(羅臼)」, <https://www.jma-net.go.jp/sapporo/tenki/kansoku/snow/snowmap/>, 2025 年 2 月 28 日)

II. 参考・引用文献

公益財団法人知床財団 2025a. 環境省請負事業 令和 6 年度（繰越）知床国立公園（非積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 28pp.

公益財団法人知床財団 2025b. 環境省請負事業 令和 6 年度知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 16pp.

公益財団法人知床財団 2025c. 環境省請負事業 令和 5 年度（繰越）知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 13pp.

公益財団法人知床財団 2024a. 環境省請負事業 令和 6 年度知床国立公園エゾシカ対策検討業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 77pp.

公益財団法人知床財団 2024b. 環境省請負事業 令和 5 年度知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 14pp.

公益財団法人知床財団 2024c. 環境省請負事業 令和 5 年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 24pp.

公益財団法人知床財団 2023a. 環境省請負事業 令和 4 年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 36pp.

公益財団法人知床財団 2023b. 環境省請負事業 令和 4 年度知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 32pp.

公益財団法人知床財団 2022. 環境省請負事業 令和 3 年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 127pp.

公益財団法人知床財団 2021a. 環境省請負事業 令和 2 年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 120pp.

公益財団法人知床財団 2021b. 環境省請負事業 令和 2 年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 17pp. 47pp.

公益財団法人知床財団 2021c. 環境省請負事業 令和2年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 43pp.

公益財団法人知床財団 2020a. 環境省請負事業 令和元年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 91pp.

公益財団法人知床財団 2022b. 環境省請負事業 令和元年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 37pp. 49pp.

公益財団法人知床財団 2020c. 環境省請負事業 平成31年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 50pp.

公益財団法人知床財団 2019a. 環境省請負事業 平成30年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 103pp.

公益財団法人知床財団 2019b. 環境省請負事業 平成30年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 36pp.

公益財団法人知床財団 2019c. 環境省請負事業 平成30年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 101pp.

公益財団法人知床財団 2018a. 環境省請負事業 平成29年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 35pp.

公益財団法人知床財団 2018b. 環境省請負事業 平成29年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 67pp.

公益財団法人知床財団 2017a. 環境省請負事業 平成28年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 66 pp.

公益財団法人知床財団 2017b. 環境省請負事業 平成28年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 9pp. 59pp.

公益財団法人知床財団 2017c. 環境省請負事業 平成28年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 42pp.

公益財団法人知床財団 2016a. 環境省請負事業 平成 27 年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 93pp.

公益財団法人知床財団 2016b. 環境省請負事業 平成 27 年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 83pp

公益財団法人知床財団 2015a. 環境省請負事業 平成 26 年度知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 110pp.

公益財団法人知床財団 2015b. 環境省請負事業 平成 26 年度知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 46pp.

公益財団法人知床財団 2014. 環境省請負事業 平成 25 年度知床国立公園エゾシカ密度操作実験実施業務報告書. 公益財団法人 知床財団. 91pp.

公益財団法人知床財団 2013. 環境省請負事業 平成 24 年度（秋期）知床国立公園エゾシカ捕獲手法検討業務 報告書. 公益財団法人 知床財団. 18pp.

III. 参考資料

参考資料 1. モニタリングユニット区分図

参考資料 2. 知床国立公園（世界遺産地域）内におけるエゾシカ捕獲数一覧

参考資料 3. エゾシカ捕獲個体情報一覧

モニタリングユニット区分図

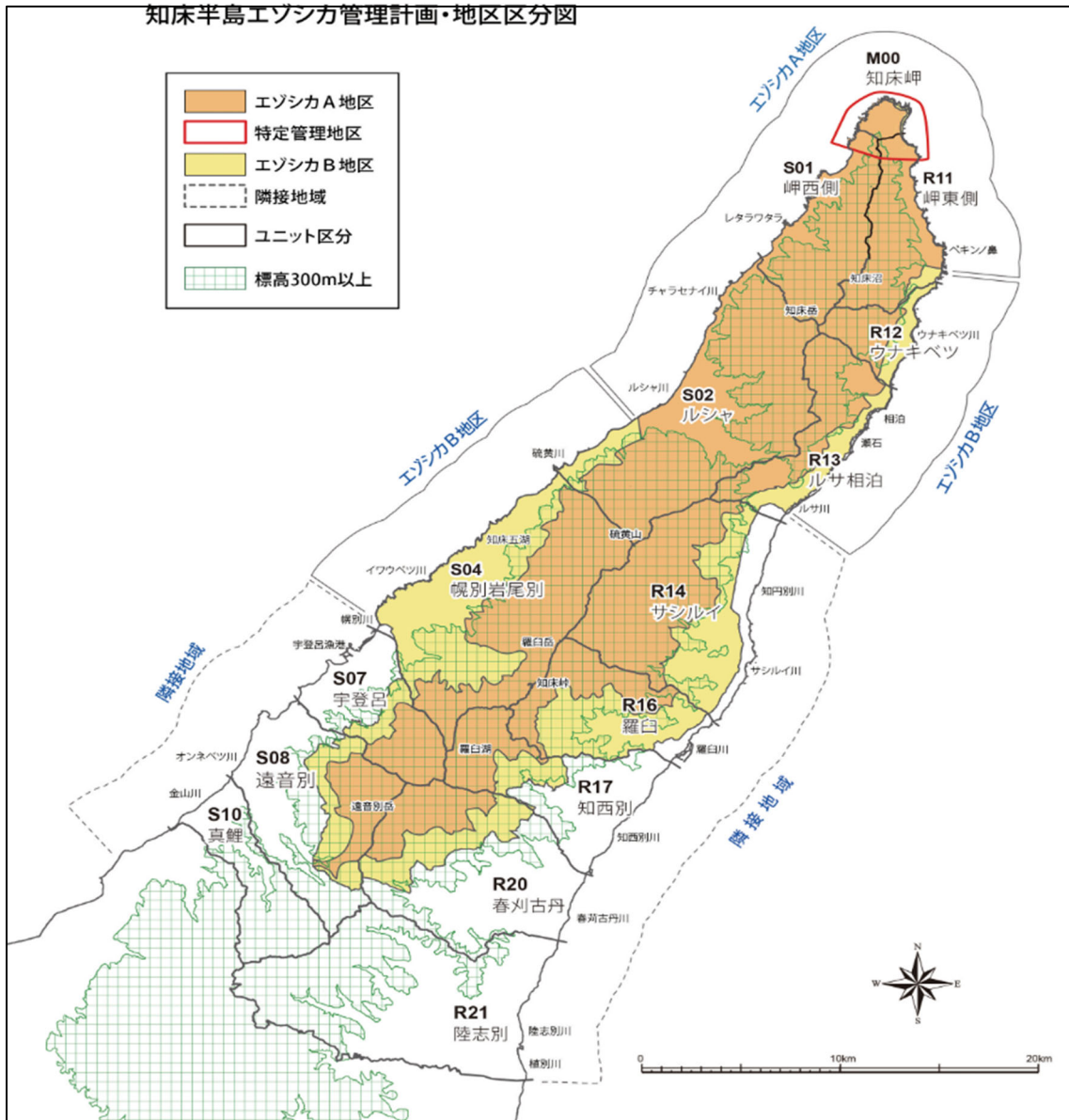


図 S-1. 知床半島におけるエゾシカの個体群管理および植生モニタリングに対応したモニタリングユニットの区分図 (M00, S04, R13 などがモニタリングユニット名)

知床国立公園（世界遺産地域）内におけるエゾシカ捕獲数一覧

表 S-1. 幌別-岩尾別地区（S04）における過去のエゾシカ捕獲実績一覧

捕獲手法	期間	シカ年度																								第1-4期 累計
		2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	第1期 計	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	第2期 計	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	第3期 計	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	第4期 計		
流し猟式SS（幌別作業道） （春期）	6月 （春期3）	-	-	-	-	-	0	11	-	-	-	11	0	-	4	1	-	5	5	-	-	-	-	0	16	
流し猟式SS（岩尾別作業道） （春期）	6月 （春期3）	-	-	-	-	-	0	25	-	-	-	25	0	-	5	3	-	8	8	-	-	-	-	0	33	
流し猟式SS（幌別作業道） （秋期）	11~12月初旬 （秋期）	-	-	-	-	-	0	8	-	-	-	8	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0	8	
流し猟式SS（岩尾別作業道） （秋期）	11~12月初旬 （秋期）	-	-	-	-	-	0	25	-	-	-	25	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0	25	
流し猟式SS（岩尾別道・町道） （積雪期）	12月~翌3月末 （冬期）	-	-	-	-	226	226	162	-	-	-	162	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0	388	
流し猟式SS（岩尾別道・町道） （残雪期）	4月 （春期1）	-	-	-	-	83	83	6	-	-	-	6	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0	89		
流し猟式SS（岩尾別川河口） （積雪期）	2~3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	15	23	26	64	22	-	-	-	22	22	-	-	-	-	0	86		
流し猟式SS（岩尾別川河口） （残雪期）	4月 （春期1）	-	-	-	-	-	0	-	2	9	12	17	38	14	-	-	14	14	-	-	-	-	0	52		
流し猟式SS（幌別作業道） （春期）	5月 （春期2）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	7	9	-	-	-	9	9	-	-	-	-	0	16		
流し猟式SS（岩尾別作業道） （春期）	5月 （春期2）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	1	1	4	-	-	4	4	-	-	-	-	0	5		
狙撃（五湖） （積雪期）	3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0	0		
狙撃（五湖） （残雪期）	4月 （春期）	-	-	-	-	-	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0	0		
誘引狙撃（幌別） （積雪期）	1~2月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	0	-	-	4	-	4	4		
誘引狙撃（岩尾別台地） （積雪期）	1~3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	6	7	2	15	38	68	21	13	17	21	72	140		
誘引狙撃（岩尾別台地） （残雪期）	4月 （春期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	1	1	4	-	-	1	6	-	-	-	-	0	7		
誘引狙撃（岩尾別川河口） （積雪期）	1~3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	33	12	10	23	78	-	18	24	21	63	141		
くくりわな（幌別） （積雪期）	1~3月 （冬期）	-	-	-	-	53	53	-	-	-	-	0	-	15	12	25	46	98	16	-	12	40	68	219		
くくりわな（岩尾別） （積雪期）	1~3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	21	7	-	28	28	-	-	-	-	0	28		
箱わな（幌別） （積雪期）	1~3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	17	17	30	33	8	-	71	-	-	-	-	0	88		
箱わな（岩尾別） （積雪期）	2~3月 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	18	18	23	-	-	23	23	-	-	-	-	0	41		
罠いわな（幌別台地上） （積雪期）	12月~翌3月末 （冬期）	-	-	-	-	85	85	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	0	-	-	2	7	9	94		
罠いわな（幌別川河口） （積雪期）	12月~翌3月末 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	83	94	51	247	6	-	-	-	6	6	-	-	-	-	0	253		
罠いわな（岩尾別川河口） （積雪期）	12月~翌3月末 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	46	55	28	9	138	4	-	-	4	4	-	-	-	-	0	142		
大型仕切柵（岩尾別台地） （積雪期）	12月~翌3月末 （冬期）	-	-	-	-	-	0	-	44	39	27	122	6	13	5	18	52	94	17	10	12	26	65	281		
大型仕切柵（岩尾別台地） （残雪期~春期）	4~5月 （春期）	-	-	-	-	-	0	-	26	16	6	0	48	1	0	0	5	6	0	1	0	3	4	58		
幌別-岩尾別 合計		-	-	-	-	447	447	418	207	177	106	102	1010	109	126	55	72	174	536	54	45	67	115	281	2274	
航空カウント発見数	S04 （モニタリングユ ニット）				1257			306	289	184	176	134		56	130	49	170	299		80	203	134				
	S04-2, S04-3※1 （モニタリングサブ ユニット）							234	207	119	134	98		42	82	31	66	172								

上段の黒字：全捕獲数，下段の赤字：全捕獲数のうちメス成獣の捕獲数

※1. モニタリングユニット S04 については、捕獲を実施していない五湖~カムイワッカ間を広く含むため、航空カウント調査の発見数の集計では、S04 単位での集計のほかに、個体数調整事業の対象エリアとなっているサブユニット単位（S04-2：岩尾別、S04-3：幌別）の集計も行った。

表 S-2. ルサー相泊地区 (R13) における過去のエゾシカ捕獲実績一覧

捕獲手法	期間	シカ年度																				第4期計	第1-4期累計		
		2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	第1期計	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	第2期計	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	第3期計	2022 R4	2023 R5			2024 R6	2025 R7
待ち伏せ式SS (積雪期)	12月～翌3月末 (冬期)	-	-	11	24	-	35	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	35	
待ち伏せ式SS (残雪期)	4月 (春期)	-	-	7	12	-	19	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	19	
誘引狙撃 (崩浜南部) (残雪期)	4～5月 (春期)	-	-	12	-	-	7	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	7	
流し猟式SS (積雪期)	12月～翌3月末 (冬期)	-	-	-	-	53	53	27	43	22	8	100	-	20	9	0	-	29	-	-	-	-	0	182	
流し猟式SS (残雪期)	4月 (春期)	-	-	-	-	23	23	13	21	10	2	46	-	11	1	0	-	12	-	-	-	-	0	81	
巻き狩り (昆布浜)	2月 (冬期)	-	-	-	-	29	29	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	29	
囲いわな (ルサ) (積雪期)	12月～翌3月末 (冬期)	-	-	-	64	74	138	17	10	30	11	2	70	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	208	
囲いわな (ルサ) (残雪期～春期)	4～5月 (春期)	-	-	-	30	24	54	8	3	13	3	0	27	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	81	
囲いわな (昆布浜)	1～3月 (冬期)	-	-	-	36	17	53	-	4	6	5	-	15	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	68	
囲いわな (相泊)	1～3月末 (冬期)	-	-	-	7	8	15	-	2	4	1	-	7	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	22	
箱わな	1～3月末 (冬期)	-	-	-	15	15	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	15	
くくりわな	1～3月末 (冬期)	-	-	-	7	7	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	7	
くくりわな	4～5月 (春期試行)	-	-	-	-	0	-	116	0	32	-	148	8	3	-	-	11	-	-	-	-	-	0	159	
ルサー-相泊 合計		-	-	23	124	188	335	78	208	88	79	13	466	78	80	42	20	18	238	33	17	19	23	92	1131
航空カウント発見数				14	49	84	147	42	125	49	41	6	263	34	32	17	6	5	94	16	5	6	4	31	535

上段の黒字：全捕獲数，下段の赤字：全捕獲数のうちメス成獣の捕獲数

表 S-3. ウナキベツ地区 (R12) における過去のエゾシカ捕獲実績一覧

捕獲手法	期間	シカ年度																				第4期計	第1-4期累計	
		2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	第1期計	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	第2期計	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	第3期計	2022 R4	2023 R5			2024 R6
船舶捕獲 (積雪期)	2～3月末 (冬期)	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	38	38	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	38
船舶捕獲 (残雪期)	4月 (春期)	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	24	24	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	24
ウナキベツ 合計		-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	66	66	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	66
航空カウント発見数						128		34	32	59	118	25		27	24	92	47	32		26	3	101		37

上段の黒字：全捕獲数，下段の赤字：全捕獲数のうちメス成獣の捕獲数

表 S-4. 知床岬地区 (M00) における過去のエゾシカ捕獲実績一覧

捕獲手法	期間	シカ年度																									第1-4期 累計
		2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	第1期 計	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	第2期 計	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	第3期 計	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	第4期 計			
巻き狩り等 (一部狙撃) 2018シカ年度～ 冬期くりわな追加 2019シカ年度～ 囲いわな追加	6月	-	-	-	-	-	0 0	-	-	-	15 9	1 1	16 10	-	-	-	-	0 0	22 14	22 16	-	-	2 1	46 31	62 41		
	7月	-	-	-	-	-	0 0	-	-	-	-	-	0 0	-	-	-	-	0 0	13 6	-	-	-	-	13 6	13 6		
	8月	-	-	-	-	-	0 0	-	-	-	-	-	0 0	-	-	-	-	0 0	2 1	-	-	-	-	2 1	2 1		
	11月～翌3月末 (冬期)	33 24	50 34	152 84	57 20	131 74	423 236	13 3	-	57 28	3 0	34 7	107 38	4 1	7 2	2 0	-	-	13 3	-	-	-	-	0 0	543 277		
	4月	82 57	53 34	6 2	-	80 55	221 148	19 1	9 2	2 1	-	-	30 4	3 0	-	-	-	-	3 0	-	-	-	-	0 0	254 152		
	5月	17 8	19 8	-	-	5 4	41 20	-	0	14 5	6 1	3 2	23 8	1 1	4 1	1 0	14 3	7 2	27 7	14 2	-	-	5 0	19 2	110 37		
知床岬 合計	132 89	122 76	158 86	57 20	216 133	685 404	32 4	9 2	73 34	24 10	38 10	176 60	8 2	11 3	3 0	14 3	7 2	43 10	51 23	22 16	5 0	2 1	80 40	984 514			
航空カウント発見数				246 (参考)			75	87	139	57	88		40	74	52	188	254		205	302	470						

上段の黒字：全捕獲数，下段の赤字：全捕獲数のうちメス成獣の捕獲数

2009 シカ年度～ 流氷期のアクセスにヘリコプター使用

2011 シカ年度～ 捕獲支援用仕切柵を利用

エゾシカ捕獲個体情報一覧

捕獲日	引き渡し日	引き渡し先	捕獲手法	場所	メス 成獣	メス 0歳	オス 4尖	オス 3尖	オス 2尖	オス 1尖	オス 0歳	捕獲位置 緯度	捕獲位置 経度
1月6日	1月7日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸			1					44.191504	145.326781
1月6日	1月7日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸			1					44.191504	145.326781
1月6日	1月7日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸			1					44.191504	145.326781
1月9日	1月14日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月9日	1月14日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別ふ化場			1					44.107833	145.04375
1月9日	1月14日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月11日	1月11日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道			1					44.086494	145.016475
1月11日	1月11日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月11日	1月11日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月11日	1月14日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口	1							44.098903	145.033344
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口		1						44.098903	145.033344
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道		1						44.086494	145.016475
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場			1					44.107833	145.04375
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場						1		44.107833	145.04375
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月13日	1月13日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月14日	1月14日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口			1					44.098903	145.033344
1月14日	1月14日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道		1						44.086494	145.016475
1月14日	1月14日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月14日	1月14日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月15日	1月15日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口						1		44.098903	145.033344
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道			1					44.086494	145.016475
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場						1		44.107833	145.04375
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場						1		44.107833	145.04375
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場						1		44.107833	145.04375
1月16日	1月16日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場						1		44.107833	145.04375
1月17日	1月17日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口			1					44.098903	145.033344
1月17日	1月17日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道							1	44.086494	145.016475
1月17日	1月22日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月18日	1月18日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月19日	1月22日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	象の鼻入口						1		44.098903	145.033344
1月19日	1月22日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月19日	1月22日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月19日	1月19日	株式会社IN-U	くくりわな	相泊左岸			1					44.191504	145.326781
1月19日	1月19日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸						1		44.191504	145.326781
1月20日	1月22日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地							1	44.12075	145.06025
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地	1							44.12075	145.06025
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地						1		44.12075	145.06025
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地							1	44.12075	145.06025
1月21日	1月21日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地	1							44.12075	145.06025
1月21日	1月21日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ルサ下流			1					44.142119	145.261052

捕獲日	引き渡し日	引き渡し先	捕獲手法	場所	メス 成獣	メス 0歳	オス 4尖	オス 3尖	オス 2尖	オス 1尖	オス 0歳	捕獲位置 緯度	捕獲位置 経度
1月22日	1月22日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流			1					44.142119	145.261052
1月22日	1月22日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ルサ下流		1						44.140942	145.261043
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地	1							44.12075	145.06025
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地		1						44.12075	145.06025
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地				1				44.12075	145.06025
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地					1			44.12075	145.06025
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地						1		44.12075	145.06025
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口			1					44.098903	145.033344
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口	1							44.098903	145.033344
1月22日	1月22日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口	1							44.098903	145.033344
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.110679	145.046727
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.110679	145.046727
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地		1						44.110679	145.046727
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地						1		44.110679	145.046727
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.104298	145.053236
1月23日	1月23日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.104298	145.053236
1月23日	1月23日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流							1	44.142119	145.261052
1月24日	1月26日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸	1							44.191504	145.326781
1月24日	1月26日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ルサ下流		1						44.1409418	145.261043
1月24日	1月24日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道						1		44.086494	145.016475
1月24日	1月24日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道			1					44.086494	145.016475
1月24日	1月24日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道				1				44.086494	145.016475
1月24日	1月24日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月25日	1月26日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ルサ下流			1					44.142119	145.261052
1月25日	1月26日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ルサ下流	1							44.1409418	145.261043
1月26日	1月26日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ルサ下流		1						44.1409418	145.261043
1月26日	1月26日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道			1					44.086494	145.016475
1月26日	1月26日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道				1				44.086494	145.016475
1月27日	1月27日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流						1		44.1409418	145.261043
1月27日	1月27日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月27日	1月27日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場	1							44.107833	145.04375
1月27日	1月27日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場		1						44.107833	145.04375
1月27日	1月27日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場			1					44.107833	145.04375
1月27日	1月27日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場						1		44.107833	145.04375
1月27日	1月27日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別ふ化場							1	44.107833	145.04375
1月28日	1月28日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	象の鼻入口						1		44.098903	145.033344
1月28日	2月12日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	ボンホロ林道			1					44.086494	145.016475
1月29日	1月29日	株式会社知床エゾシカファーム	くくりわな	ボンホロ林道	1							44.086494	145.016475
1月29日	1月29日	株式会社IN-U	くくりわな	相泊左岸			1					44.191504	145.326781
1月29日	1月29日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流		1						44.142119	145.261052

捕獲日	引き渡し日	引き渡し先	捕獲手法	場所	メス 成獣	メス 0歳	オス 4尖	オス 3尖	オス 2尖	オス 1尖	オス 0歳	捕獲位置 緯度	捕獲位置 経度
2月1日	2月2日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸				1				44.191504	145.326781
2月1日	2月2日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸	1							44.191504	145.326781
2月2日	2月2日	北海レンダリング協同組合	くくりわな	相泊左岸						1		44.191504	145.326781
2月3日	2月3日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流			1					44.142119	145.261052
2月3日	2月3日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流		1						44.142119	145.261052
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地			1					44.104298	145.053236
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地			1					44.104298	145.053236
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.104298	145.053236
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.104298	145.053236
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地						1		44.104298	145.053236
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.110679	145.046727
2月3日	2月3日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地						1		44.110679	145.046727
2月4日	2月4日	株式会社IN-U	くくりわな	ルサ下流	1							44.1409418	145.261043
2月4日	2月4日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月4日	2月4日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月4日	2月4日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月4日	2月4日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月12日	北海レンダリング協同組合	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地				1				44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地						1		44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月5日	2月5日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月6日	2月6日	株式会社知床エゾシカファーム	囲いわな	岩尾別台地			1					44.12069	145.06177
2月6日	2月6日	株式会社知床エゾシカファーム	囲いわな	岩尾別台地			1					44.12069	145.06177
2月10日	2月10日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地				1				44.104298	145.053236
2月10日	2月10日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地			1					44.104298	145.053236
2月17日	2月17日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地		1						44.110679	145.046727
2月17日	2月17日	株式会社知床エゾシカファーム	待ち伏せ	岩尾別台地		1						44.110679	145.046727
2月17日	2月26日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.110679	145.046727
2月17日	2月26日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別台地			1					44.110679	145.046727
2月17日	2月26日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別台地			1					44.110679	145.046727
2月17日	2月26日	北海レンダリング協同組合	待ち伏せ	岩尾別台地	1							44.110679	145.046727
2月20日	2月20日	株式会社知床エゾシカファーム	囲いわな	岩尾別台地		1						44.12069	145.06177
2月20日	2月20日	株式会社知床エゾシカファーム	囲いわな	岩尾別台地				1				44.12069	145.06177
2月20日	2月20日	株式会社知床エゾシカファーム	囲いわな	岩尾別台地						1		44.12069	145.06177
2月20日	2月20日	株式会社知床エゾシカファーム	囲いわな	岩尾別台地			1					44.12069	145.06177
2月20日	2月20日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025
2月20日	2月20日	株式会社知床エゾシカファーム	大型仕切り柵	岩尾別台地			1					44.12075	145.06025

*「捕獲日」は止め刺しを実施した日を含む場合もあり。

・株式会社知床エゾシカファーム	100頭	*無償引き渡し
・株式会社 IN-U	9頭	*無償引き渡し
・北海レンダリング協同組合	29頭	*処分費用 29頭分：207,350円（税込み）
計	138頭	

環境省 釧路自然環境事務所 請負事業

事業名：令和7年度知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務

事業期間：令和7年（2025年）12月4日～令和8年（2026年）3月24日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531

知床自然センター内



リサイクル適性の表示：印刷用の紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作成しています。